

安政年間の佐賀藩士

—藩士名簿『早引』、『石高帳』にみる—

生馬 寛信¹, 中野 正裕²

Members of a Saga-han Samurai Family in the Ansei Era

—On HAYABIKE and KOKUDAKACHŌ (List of Warriors)—

Hironobu IKUMA, Masahiro NAKANO

要旨

安政年間に作成された佐賀本藩家臣団名簿『早引』を主史料とし、『石高帳』で補いながら、佐賀藩直臣団構成と学校教育の一端を紹介する。安政年間作成『早引』は、「文武課業法」の達成状況と年齢の記載など、類例のない記載内容があり、初記載から3年間の家主の世代交代、所属大組の変更など家臣団の変容が表わされている。それは激動の安政年間の藩制構造の変動を表わすものであり、幕末期佐賀藩の藩制構造を解明するための基礎資料となる。

はじめに

藩士名簿は『着到帳』『惣着到』などと呼ばれ度々作成されているが、安政年間作成『早引』は、類例のない特徴がある。すなわち、石高、住居、所属組に加わえ、1) 嘉永3年制定の「文武課業法」に即応して各藩士の課業達成状況が記載されていること、2) 年齢が記載されていること、3) 安政2年の初書き作成から同5年までの各家臣の死去、隠居、相続、住居変更、所属大組の組み替えなどが、加筆・補正され、異動を知ることができることである。安政年間は国内では、外圧による開国、幕府権力の弱体化など、幕末の大変動が始まっていた。佐賀藩内では、西洋科学技術・軍事技術・医療の本格的研究と実用化をすすめ、藩海軍創設、軍事体制の変革、殖産工業の推進、医療改革、藩士教育体制の強化、藩士就学の義務化など、藩政変革遂行のまっただ中にあった。変革期にあった安政期の佐賀藩研究の基礎史料として『早引』の利用価値は高く、当時の家臣団構成を把握することは、佐賀藩制構造解明の基礎的な作業となる¹⁾。

『早引』掲載は直士の侍以上で、それも当時の家主（場合によっては嫡子も）、相続後の新家主に限られ、次男以下は掲載されない。枝吉忠左衛門の次男二郎（のちの副島種臣）は『早引』に名はない²⁾。手明鑑の江藤新平の名もあがらない。

¹⁾ 佐賀大学 文化教育学部 教育学・教育心理学講座

²⁾ 佐賀県立図書館

『石高帳』も直士侍以上で記載内容は『早引』より簡略だが、西洋科学研究・実用化のために藩外や藩内から特別に採用された人物が記載されており、本稿では補足資料として使用した。

解題および解説

一 史料解題

(1) 史料の所蔵、形態について

『早引』も『石高帳』も鍋島報效会・佐賀県立図書館寄託所蔵の『鍋島家文庫』にある。

『早引』（鍋331-29）1冊 14×19cmの小型の横帳

『石高帳』（鍋331-52）1冊 26cm

『物成』（鍋424）1冊

(2) 作成時期について

『早引』の外表紙、中表紙、奥付に次のように記されている

安政二年卯六月十二日調子也（奥付）

安政三年辰四月改（表紙）

安政三年十二月改（中表紙）

安政五年十二月改（表紙）

安政2年（1865）6月の最初の調査で初稿が作成され、その後、死去や跡目相続、文武課業法の規則の変更と新規達成、転居、大組の編成替えや組み替えなどの変更によって、加筆や線消しが行なわれていった。田代孫三郎は安政5年に当時流行したコレラで死去したが、孫三郎の名前には線消しが付されている。

『早引』は行政上利用するために作成されたと思われる。安政期以後の組編成が入っているよう、安政6年以後も書き加えられた可能性はある。

『石高帳』には作成年が記されていないが、嘉永4年に佐野栄壽の推薦で理化学研究のために招聘され藩士となった京都の化学者中村奇輔（15人扶持・米27石）の名前が記載されているので、これ以後安政初期のものであろう。上記『早引』と多くの人名が重なっているが、『早引』より掲載人数は少ない。『早引』で線消しされた人名があるので、安政元年～3年頃の調査と推測される。記載事項は石高、住所、所属組に限られて簡略であるが、石黒寛二、中村奇輔、杉谷雍助、小出千之助ら西洋科学・軍事技術実用化に向けたプロジェクトのために特別に採用・登用された人物が記載され、彼らは『早引』にはないので、これを補う名簿として使用できる。

別に同時代の名簿として『物成』がある。表(1)のように、登載者の石高は一様に低く、これは手明鑑名簿といえる。江藤新平はこれに登載されている。『物成』の紹介は別の機会にしたい。

(3) 『早引』の記述事項

(イ)(ロ)(ハ)順で大分類し、次に○を付けて同姓ごと一括する。例えば、○石橋と記した次には石橋姓の各家の姓は省略している。各家ごとに縦書きで次の事項を記している。

- (1) 物（物成）、切（切米）、米（扶持米）で示す石高³⁾。内米の加（加米）・役（役米）を小文字で添記。
- (2) 文武課業達成の種目、程度が「文トク」「槍メン」などと略記されている。

文武課業達成はその内容を墨書ないし朱書きで記し、名前の上に○、○を朱書でつける。

○は「課業済」、○は「半課業済」を意味する。

- (3) 年齢、当主名と嫡子名（当主名だけが多い）
- (4) 所属大組を一字で略記、居住地を朱書

初調査の安政2年から安政5年12月改めの間に発生した死亡や隠居、改名、所属組変更、住所変更是朱線で消し、新規事項を朱書してある。

記載の年齢は、生年が明らかになっている藩士の年齢と照合して、ほぼ安政3年時点の年齢とみなすことができるが、適合しない場合がある。

(4) 本稿の表記について

- 本稿に掲載するにあたって、利用の便を考え、次のように組み直した。
- (1) 名簿構成を原本のイロハ順から50音順に並べ替えた。しかし、50音順の中での各名字の順次、同名字中の掲載家順は原本に従った。下段に名字を記載していないのは上段の家族である。
 - (2) 氏名、石高、() 内に内米の加米・役米、文武課業の達成状況と種目内容・程度、年齢、居住地、〔所属組〕の順に並べた。
 - (3) 氏名の漢字は原則として原文に従ったが、異体字やくずしが特定できない場合は統一した。
虎・虎→虎、卯・卯→卯、柳・柳→柳、權・權→權 などである。
氏名以外は概ね常用漢字を使用した。
 - (4) 文武課業の達成程度は正式名称にした。所属組名は原本同様〔播〕のように一字で略記した。
 - (5) 居住地は変更後のものを記載した。
 - (6) 死去、改名などを示す線消しは、下線で示した。
 - (7) 所属組の再編成、組替わりは〔志→水〕のように矢印で示した。
- 『早引』と『石高帳』で所属組に若干の相違があり、本稿は『早引』によった。
- (8) ◇と*を付けて備考としているが、『早引』ではなく、本稿利用の便を考えて筆者が加えたもので、まだ試みの域を出ない。

二 文武課業法

(1) 本稿の表記について

文武課業の達成状況が記録されていることが、『早引』の特色であるが、表記は略文字である。本稿では課業法に示された正式名称で表記した。

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 文学 | 「文トク」独看、「文出」出精、蘭学「蘭四」四段 |
| 剣(劍)術 | 「ヲク、奥」奥義、「イン」印可、「剣メン」免状、「剣目」目録 |
| 槍(鎧)術 | 奥義、印可、免状、目録の表記は剣と共に通 |

刃、倉などの略字で表わすこともある

- | | |
|----|--------------------------------|
| 火術 | 「火ヲク」奥義、「火メン」免許、「火二」二段、 |
| 柔術 | 「柔メン」免状、「柔目」目録、 |
| 体術 | 「体メン」免状、「体目」目録 ⁴⁾ 、 |

円極(エンゴク) 「円三」三段

文武課業の「課業済」○、「半課業済」○の印があつても、文武の種目や程度が記載されていない場合がある。○○だけの場合は、印の横に（種目・程度記無）と注記したが、他は注記を加えない。

達成の記号・種目・程度には朱書と墨書が混在しているが、本史料の末尾に、「本文相傳附之義朱書墨書相替義無之事」とあり、達成付けの朱書、墨書にさしたる違いがないことがわかる。

(2) 文武課業法の内容

文武課業法の内容については、嘉永3年（1850）発足時の文章はよく知られているが、以後の改定については、ほとんど知られていない。筆者は別の小論において、成立の意義と内容程度、改定過程、達成状況について考察したことがある。ここでは内容と改定について簡略に示す⁵⁾。

着座以下30石までの上・中級士は、文学は独看、武芸は剣または槍の免状。文武の両編必修。

30石未満の下級士と手明鑓は、文学は出精昇達、武芸は槍または剣の目録。文武の両編必修。

ここまで文武両編の達成を義務づけた。25歳までは課業に専念し、それまでに課業を達成できなければ役に就けず、出米、減禄などの処罰を科す。

文武課業法は嫡子や25歳までの若年層のみを対象としたものではなく、部屋住みを含め40歳未満の直藩士が何らかの意味で適用の対象となっている。

西洋流砲術の軍事組織火術組にも、文武課業法を適用する一方で、嘉永4年（1851）2月には、西洋式軍事技術の導入強化にともない、火術組としての課業法を制定し、課業査定の対象とした。火術は西洋流砲術であり、その製造や訓練に関わることを総称した。火術方は西洋流砲術訓練と大銃製造のために立てた局で、弘化元年（1844）、佐賀城外鬼丸にあった西屋敷（観頤荘）跡の十五茶屋に設けられた。はじめは内局（御側）に置かれ、ついで古流の火術組の石火矢方に移り、嘉永3年から再び内局に帰った。この嘉永3年8月の達示では、火術段階を初段、二段、免許、奥義と定めている。嘉永4年以降では、文学と火術で文武課業済となる場合や火術と他の武芸で課業済となる場合があった。

別に医師にも嘉永4年2月医術課業法を定め、直医、陪臣医、無扶持医を問わず、課業を達成して免札を取得する迄医学寮に就学させ、その間は組廻の状態に置いた。

文武課業法は厳しい規定で、厳格な適用には無理があったと見え、猶予措置の通達も出ている。

安政2年（1855）には、かなり大幅な課業規定と内容の改訂や猶予期間の延長を行なった。すなわち、柔術と砲術を武芸課業の内に加え、蘭学を文学の内に加えた。さらに、文学はなく武芸だけでも課業の取り調べをする場合があるとされた。30石以上は二術の免状相伝、30石以下手明鑓までは二術の目録ないし一術でも免状相伝ならばよい、御火術与と大筒手明鑓までは砲術のほかに武芸一術を遂げれば、文学は遂げていなくても課業済みとする、としたことである。25歳以下でも課業達成者には役方就職を認めることになった。また、文学教職者や武芸師家は一家を建てる者として格別の吟味をするとした。安政6年（1859）までの猶予措置も示した。現実的、実用的な改変であるとともに、文学達成とくに儒学達成義務を後退させたのである。『早引』の文武課業法達成記載はこの改訂に拠っている。従って武芸一編だけで課業済と査定された者も相当いる。

『早引』に達成状況が記録された理由は、一つは役方採用の参考としたのであろう。もう一つ考えられるのは達成の状況把握である。『早引』への達成状況記載はまず、安政3年でなされ、安政5年が最終更新とみてよからう。法令としての文武課業法は安政6年5月の達示で廃止されるから、法令が存在した期間の達成状況はほぼ網羅されているといえる。ただし、遗漏の有無は確証がない。次男以下や手明鑓は弘道館就学が強制で、文武課業法適用の対象になっていたが、彼らは『早引』には掲載されていない。徒士・足軽や直士の陪従者は正格ではないが、何らかの形で弘道館就学がありえたとされているが不明な点が多い。よって『早引』では文武課業法達成状況や弘道館就学の全貌を知ることできないが、弘道館資料や達成状況を記した別資料が未発見の現状では、達成の様態を推察できる格好の資料といえる。

(3) 『早引』から見える文武課業達成の状況

文武課業達成の状況を『早引』をもとに整理し、考察する。石高、年齢は『早引』記載による。長崎海

軍伝習生や義祭同盟連名者と照合する場合も同様である。

- (1) 課業法の対象者を『早引』登載者23~45歳までに広げ、課業済、半課業済、未達成の状況を見ると表(2)、課業種類は表(3)のようである。
- (2) 課業済の種類、文学及び武芸科の達成者を身分と重ねると表(4)、(5)となる。
- (3) 蘭学、火術・砲術達成を抽出すると表(6)、(7)のように集計できる。
- (4) 安政2年から開始の幕府の長崎海軍伝習に佐賀藩は各藩最多の伝習生を派遣したが、『早引』登載者に限ると、表(8)のようにあげができる⁶⁾。
- (5) 嘉永3年（1850）5月、弘道館教諭で国学・史学の唱導者枝吉神陽（平左衛門・空助）を中心に義祭同盟が結成された。嘉永3年～安政2年、同5年の『義祭同盟連名帖』記載者の延べ人数は91人である。内54人を表(9)のように『早引』と照合できる。江藤新平も参加しているが、手明鑑なので『早引』には載らない。鍋島河内、鍋島安房、池田半九郎などの重職層や一部の藩士、若い大隈八太郎、久米丈一郎らを除いて、大半が文学独看か出精を達成している。彼らの文学学力は総じて高かった。大隈は安政2年の弘道館南北寮騒動で退学し、翌3年に蘭学寮に入りなおしたばかりで、どの課程も達成していない。連名者は30石以下の下級士が約半数を占めている⁷⁾。

三 大組制について

佐賀藩の武士身分は、三家・親類・親類同格・連判家老・加判家老・着座・平侍・手明鑑・徒士・足軽などという序列（給禄制度）が本藩を中心にできあがった。家臣団編成を藩全体では、本藩を「与」-「私」編成、三家・親類・親類同格では「備」編成として、区別して把握する。平侍から足軽までは、主に着座を大組頭とする組（与）に編成される（=「与」）。組中に主従関係はない。平侍以上には、主従関係のある陪從者がいる（=「私」）、また、本藩や多久家には、被官という武士と農・工・商との間に位置する実体の把握しにくい身分が存在した。組（与）は直轄軍事編成であり、概ね15大組であったが、嘉永6年（1853）から鍋島志摩を、御火術組の大組頭として編制し、16組となった。組は法令・指令の下達、報告上申の機能ももっていた。弘道館教授で藩主直正の側頭も勤めた藩儒の古賀穀堂は、文化3年（1806）、第9代藩主斎直に提出した『学政管見』で、大組ごとの就学督励がもっとも効果的で徹底すると主張した。直正の時代になって、大組を通した文武督励、弘道館出席督励がしばしば実行されている。

嘉永期からあって安政6年に存在した大組と、『早引』一字で略号記載されている大組を照合させると、次のようになる。

鍋島志摩組	[志] 嘉永6年より火術組→御側新組
鍋島弥平左衛門組	[弥]、鍋島播磨組 [播]、鍋島隼人組 [隼]、鍋島市佑組 [市]
鍋島主水組	[主]、鍋島左馬助組 [馬]、深江六左衛門組 [六]、大木主計組 [計]
多久縫殿組	[縫]、鍋島周防組 [周]、坂部又右衛門組 [又]、石井勘解由組 [勘]、
多久伊織組	[伊]、中野神右衛門組カ [神]、鍋島鷹之助組（主水家）カ [水]
鍋島左太夫組	[左] →安政4年左太夫死去にともない鍋島臥之助組 [臥] に代替わりした。
原田大右衛門組（安政4年より）	[大] が編制された。

安政6年では存在が確認できないが、文久元年（1861）年存在が確認できる組も記載されている。

鍋島鷹之助組（主水家）[水]、岡部空佐組[空]、鍋島千之丞組[千]である。

[迦]とあるのは組迦であり、前述の医学課業法との関係で、医師の組迦が目立つ。

石井姓の組記載がほとんど欠落し（64家）、何故かは不明である。また拙稿筆者は制度を十分に把握していない。しかし組改組や組替の実際の一端を知る上で参考になるので、不完全ではあるが初書（前期）と変

更後（後期）に分けて各組所属家数を集計して示す。所属に変更がない場合は前期数を後期数に入れた。

組名（前期／後期）と表記し、→は組解消による他組への移動を示す。

志摩組（254／247）、弥平左衛門組（42／36）、播磨組（41／40）、隼人組（52／55）、

市佑組（58／59）、〔主〕組（30／6）・主水組（37／59）〈〔主〕→〔水〕16〉、

左馬助組（64／70）、六左衛門組（70／73）、主計組（63／0）〈〔計〕→〔千〕50〉、

縫殿組（66／64）、周防組（70／64）、又右衛門組（68／75）、勘解由組（3／2）

左太夫組（69／→臯之助組 64）、神右衛門組（68／0）〈〔神〕→〔大〕40、〔神〕→〔千〕6〉

伊織組（70／多久伊織は死去）・〈〔伊〕→〔李〕48〉

大右衛門組（0／51）、李佐組（0／61）、千之丞組（0／68）

組迦（前期・後期とも組迦 18、前期組迦から後期組入り 3、前期組入りから後期組迦 2）

安政2～5年の間に組み替えがあった。おおよそ3分の1に達しているが、左太夫組はほぼ臯之助組に引き継がれている。主計組、神右衛門組、伊織組はなくなり、それぞれ新規の千之丞組、大右衛門組、李佐組に多く引き継がれたとみえる。志摩組から他組へ他組から志摩組への出入りも目立つ。

組迦は医者が多く組迦の状態が続いているが、組入りもある。

四 家中の物成惣高

末尾に蔵入地を除いた家臣団の物成惣高を記している。算用数字に直して示す。

物成15万3436石 7斗1升2合

内 物成 5万8351石		三家中
同 1万8818石 6斗		御親類中
同 3万1113石 8斗		同格中
同 1万3525石 5斗		御家老中
同 7176石 4斗	但加米除て本地斗り	着座中
同 2万4337石 4斗3升2合	但右同断	惣侍中
同 113石 9斗8升		手明鑓中

注

1) 幕末佐賀藩の藩制構造や人物については主に、次の先行研究及び資料を参考にした。

(1) 鍋島家文庫『鍋島直正公御年譜地取』(佐賀県立図書館編・発行『佐賀県近世史料 第1編第11巻』2003年、収載)

(2) 久米邦武・中野礼四郎編『鍋島直正公伝 第三～五編』鍋島家編纂所、1920年。

(3) 藤野保編『佐賀藩の総合研究』吉川弘文館、1981年。

(4) 藤野保編『続佐賀藩の総合研究』吉川弘文館、1987年。

(5) 旧肥前史談会編纂『復刻編集 佐賀県歴史人名事典』洋学堂書店刊、1993年。

(6) 高野和人編『肥前鍋島家分限帳』青潮社、1994年。

(7) 木原溥幸『幕末期佐賀藩の藩政史研究』九州大学出版会、1997年。

2) 枝吉二郎は安政6年（1859）に郊外今津住居の副島和忠の入婿となり副島姓となった。

3) 「物」（物成）佐賀藩では禄高は、一般に知行高でなく物成高で示される。原則的には、知行高の4割程度が物成高となる。

「切」（切米）知行地をもたず藩から現米を俸禄として受け取った者をいう。

「米」（扶持米）藩から扶持米を俸禄として受け取った者をいう。

「加」（加米）・「役」（役米）役職についている者に支給され、やめるとなくなる。『早引』には内米として付記してある。

「一代」一代限りの平侍。

4) 体術は、素手、または短い武器を持ってする攻撃・防御の術。円極流は、元長州の士、原家が鍋島家に石火矢役として仕

え、代々相伝した佐賀藩古流炮術の一種。弘化3年佐賀藩で從来行なわれた中島流・小島流・荻野流・真田流・方円流・半眼流等を円極流に統一した。これに対し火術は西洋流である。

5) 佐賀藩の文武課業については次の資料と研究がある。

- (1) 鍋島家文庫『文武課業録 全 文久二年戊辰無月上旬 写之 堤久之允貞卿存』
- (2) 「旧佐賀藩教育調査報告」(文部省編『日本教育史資料』)
- (3) 倉沢剛『幕末教育史の研究三 諸藩の教育政策』吉川弘文館、1985年、10頁。
- (4) 鈴木博雄『近世藩校に関する研究』振学出版、1995年、262~286頁。(3)(4)とも(1)に収載の資料のみによっている。
- (5) 生馬寛信「近世学校の成人学習機能に関する資料—佐賀本藩及び多久領における文武課業法に関する資料(日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究報告書『近世日本における生涯学習システムの成立と発展に関する全体論的研究』2004年)。(1)の堤資料によった。
- (6) 生馬「幕末佐賀藩の学校改革と『文武課業法』制定」(全国地方教育学会紀要『地方教育史研究』第26号、2005年)。
- (7) 生馬「佐賀藩『文武課業法』における課業達成状況—藩士名簿『早引』による」(同上『地方教育史研究』第28号、2007年)。

6) 幕府佐賀藩海軍伝習については、次の資料を参考にした。

- (1) 秀島成忠編『佐賀藩海軍史』知新会、1917年(復刻1972年、原書房)
- (2) 羽場俊秀「長崎海軍伝習と佐賀藩」(杉本勲編『近代西洋文明との出会い—黎明期の西南諸藩』思文閣出版、1987年)。
- (3) 杉本勲・酒井泰治・向井見編著『幕末軍事技術の軌跡—佐賀藩史料『松之落葉』』思文閣出版、1987)

7) 義祭同盟の連名者については次の資料によった。

- (1) 楠公義祭同盟結成百五十年記念顕彰碑設立期成会『楠公義祭同盟』龍造寺八幡宮・楠神社、2003年。
- (2) 龍造寺八幡宮・楠神社編『枝吉神陽先生遺稿』出門堂、2006年。

財団法人鍋島報效会及び佐賀県立図書館は、史料閲覧と利用について許可下され、格別の便宜をはかつて下さいました。

小宮睦之、岩松要輔、大園隆二郎の諸先生、その他多数の方々から格別のご配慮や種々のご教示をいただきました。

衷心より感謝申し上げます。

表(1) 『早引』および『物成』に記載の家臣団の石高別家数と掲載人数

史料	『早引』		『物成』
	物成層	切米・扶持米層	切米・扶持米層
支藩 3家			
親類・同格 8			
家老 6			
着座 19			
200~250石 19			
150~199石 22			
100~149石 62	100~150石 14家		
50~99石 103	50~99石 69		
30~49石 68	30~49石 198		
29石以下 41	25~29石 111 10~24石 340 9石 169 8石以下 2	5~15石 856家	
小計 351家(28%) (掲載人数 503人(28%))	小計 904家(72%) (掲載人数1,265人(72%))	小計 856家	
『早引』合計 1,255家 (掲載人数1,768人)		『物成』合計 856家	
総計 2,111家			

表(2) 課業済、半課業済、課業未達成(23歳~45歳)の人数

表(3) 課業済の課業種類

種類\石高	30石以上	30石未満
課業済	81人(20.7%)	231人(47.2%)
半課業済	178(45.5)	153(31.3)
課業未達成	132(33.8) (内100石以上33人)	105(21.5) (内米9石62人)
計	391人	489人

課業種目\石高	30石以上	30石未満
文学・武術両課業 (文学に蘭学を含む)	52人	111人
文学一篇2科以上	0	2
武術一篇2科以上	16	68
文・武のうち一篇	13	50
計	81人	231人

表(4) 文学独看及び文学出精達成者とその身分

程度	文学独看		文学出精		
	石高\階層	物成層	切・米層	物成層	切・米層
100石以上	29人	2人	0人	0人	
99~50石	20	8	0	0	
49~30石	14	40	0	0	
30石未満	6	56	8	81	
小計	69	106	8	81	
総計	175人		89人		

表(5) 武芸の免状及び目録取得者

程度	免状以上		目録		
	石高\階層	物成層	切・米層	物成層	切・米層
100石以上	43人(3)	0人	0人	0人	
99~50石	36(1)	19	0	0	
49~30石	16(1)	60(5)	0	3	
30石未満	1	101(8)	0	199(23)	
小計	96(5)	180(13)	0	202(23)	
総計	276人(18人)		202(23)		

注1) 武芸は、剣、槍、体術、柔術

2) 免状以上には、奥儀、印可を含む

3) ()内は一人で複数科目の免状あるいは目録を取得した者

1科目は免状以上、1科目は目録の者を含む

表(6) 蘭学達成者

氏名	段階	石高	年齢	備考
片 江 久一郎	四段	切20石	20歳	安政2長崎海軍
中牟田 倉之助	四段	米 9石	21歳	同 上
原 元一郎	四段	切20石	20歳	同 上
秀 島 藤之助	四段	切20石	22歳	同 上
眞 木 鉄太郎	四段	米18石	21歳	文学出精
益 田 左馬進	四段	切25石	21歳	文出、安2長崎
益 田 辰之助	三段	切25石	39歳	文学出精

表(7) 蘭学・火術・円極流炮術達成者の身分

階層 種目	物成層		切米・米層		計
	30石以上	未満	30石以上	未満	
蘭学	0人	0人	0人	7人	7人
火術	8	2	11	91	112
炮術	2	3	4	17	26
計	10	5	15	115	145

表(8) 安政2年の幕府長崎海軍伝習派遣と課業状況

伝習者氏名	課業種目・程度	石 高	年齢
佐野 栄寿左衛門	象先堂、適塾など	切 70石	35歳
石田 善太夫	○火術奥儀、剣目録	切 20石	41歳
石隈 兵之助	○文学独看、剣免状 (蘭学寮詰、安政4長崎海軍)	米 27石	26歳
池尻 勘太夫	○円極免状	米 45石	56歳
伊東 兵左衛門	○火術免許	物 55石	37歳
石井 茂左衛門		物 65石	37歳
石井 健一	○文学独看、火術免許	米 10石	33歳
岡岡 一鹿之助		切 30石	27歳
片山 久一郎	○蘭学四段	切 20石	20歳
亀坂 新八	○火術二段、體術目録	切 25石	26歳
澤島 清之允	○剣目録、火術二段	切 20石	25歳
島内 仁助		切 45石	23歳
武田 左平太		切 30石	23歳
田口 忠藏		切 135石	23歳
田中 源右衛門		切 25石	29歳
田中 大之進		米 27石	25歳
田中 岩岸		切 20石	32歳
千布 右喜太		米 9石	34歳
中野 助太郎		切 20石	35歳
中牟田 倉之助		物 50石	35歳
原元 一郎	○蘭学四段	物 60石	29歳
秀島 藤之助	○蘭学四段	米 9石	21歳
平方 治三太	○蘭学四段	切 20石	20歳
松永 寿一郎	○火術二段、槍目録	切 20石	22歳
馬増 七太夫	○火術	切 20石	30歳
益田 孫作		切 50石	23歳
馬渡 左馬進	○文学出精、蘭学四段	物 135石	35歳
益田 八郎		切 50石	24歳
馬宮 平太夫		米 12石	19歳
宮地 己之助		物 50石	21歳
山村 又兵衛		切 40石	44歳
本島 藤太夫	○火術免許、剣目録	切 40石	26歳
本島 喜八郎	○火術奥儀	切 20石	35歳
	○槍、火術	切 65石	46歳
		切 40石	26歳

(佐野を除き以下50音順)

注1) 長崎海軍伝習人名は『佐賀藩海軍史』『松乃落葉』などによる

2) 石高は石未満省略

表(9) 義祭同盟連名者の文武課業達成状況

氏名		課業種目・程度	石高	年齢
鍋島	河内	弘道館頭人、親類	物8110石	
鍋島	安房	執政、親類同格	物3300石	
石隈	小太郎	○文学独看	切 45石	24歳
井上	作左衛門	○文学独看	切 90石	26歳
石池	左源太	○文学独看、劍	物 87石	25歳
犬塚	文八郎	○文学独看、劍免状	物 230石	24歳
岩村	与七郎	○文学独看	切 35石	29歳
伊枝	右近	○文学独看	物 300石	31歳
大東	源左衛門	○文学独看、槍目録	切 20石	26歳
大枝	平左衛門 (奎助)	○文学独看	切 30石	35歳
大民	玄之進	○文学独看、槍免状	米 9石	28歳
大八	平太郎	○文学独看	物 45石	25歳
大木	小介	○文学独看	物 120石	19歳
蒲原	権太夫	○文学独看、槍免状	物 50石	30歳
木原	儀四郎	○文学独看	物 75石	29歳
原閑	次郎	○文学独看	切 35石	29歳
久井	虎吉郎	○文学独看、劍目録	切 20石	27歳
久米	丈一郎	○文学独看	切 15石	22歳
久知	才平	○文学出精	切 40石	18歳
古相	平作	○文学、劍	切 35石	27歳
坂佐	宗左衛門	○文学独看、劍目録	切 25石	25歳
坂佐	文又四郎	(課業内容記載欠)	切 20石	32歳
本部	晋三郎	○文学独看	米 18石	32歳
松基	右衛門	○文学独看	物 187石	28歳
島園	謙藏*	○文学独看、槍目録	切 45石	32歳
島忠	太夫	○文学独看、劍免状	切 25石	33歳
下村	代住	○文学独看、劍目録	切 25石	35歳
千喜	十郎	○文学独看	切 25石	29歳
多伊	良中	○文学独看、劍目録	切 30石	49歳
田高	木取	○文学出精、槍目録	米 9石	49歳
高高	富永	〈弘道館教諭〉	一代	21歳
武德	島口	○文学独看	切 55石	27歳
中中	野口	○文学	切 25石	22歳
野野	文之助	○文学独看、劍免状	切 50石	34歳
深福	広一郎	○文学独看、劍免状	切 40石	42歳
深福	俊門	○文学独看、劍免状	切 20石	30歳
福馬	彦太郎	○文学独看、劍目録	切 18石	26歳
森本	豊五郎	○文学独看、劍免状	切 20石	24歳
藪吉	喜八郎	○文学独看、劍目録	切 25石	23歳
横山	文之助	○文学独看、劍免状	物 80石	23歳
米元	佐千	○文学独看、火術	切 40石	26歳
計	左衛門	○文学独看	物 40石	32歳
54人	謙助	(課業内容記載欠)	切 110石	23歳
	小次郎	○文学出精	物 75石	23歳
	重兵衛	○文学独看	切 25石	21歳
	計	○文学独看、槍目録	切 25石	33歳
	54人		切 20石	33歳

(鍋島河内と鍋島安房を除き、以下50音順)

注1) 義祭同盟連名者は龍造寺八幡宮・楠神社編『楠公義祭同盟』による。

2) 同盟連名者と『早引』名簿が照合できる者のみ抽出。

(※島園右衛門の実弟、『早引』では副島謙助)

鍋島家文庫『早引』安政3年～5年 記載名簿

氏名	石高	文武課業達成 種目・程度 ◎課業済 ○半課業済	年齢	居住地〔所属組〕	
				◇*備考	
あ					
斐 善太夫	米 27石	○槍目録	44歳	田代	[主→水]
助作			17歳		
綾部 大右衛門	切 30石	○火術免状	41歳	中ノ館	[志]
綾部 四郎太夫	米 18石		51歳	椎	[六]
新五郎		○文学出精、剣免状	28歳		
綾部 一郎左衛門	物 183石5斗	○剣免状	44歳	片田江	[播]
鹿之助		○文学独看	23歳		
有田 龜之助	物 275石		21歳	中ノ小路	[左→臯]
有田 傳藏	物 45石		41歳	中ノ橋小路	[計→千]
伊八郎			午16歳		
相原 丈之進	切 20石		54歳		[左→臯]
力人		○文学出精、槍免状	32歳	石長寺小路	
相浦 惣左衛門	米 32石4斗		54歳	本庄村	[神→大]
大之進			20歳		
相浦 左馬允	物 30石	○剣目録	41歳	与賀馬場	[神→大]
相浦 源太夫	米 23石4斗	○(種目・程度記無)	41歳	愛敬島	[志]
忠一郎			16歳		
相浦 又右衛門	切 20石		65歳	神野村	[周]
卯太夫			32歳		
安住 清右衛門	切 20石	○火術二段、槍免状	44歳	妙安寺小路	[志]
英一郎		○文学出精、火術二段	23歳		
安住 半作	切 20石		48歳	鷹師	[神→大]
安住 垣之允	切 20石		42歳	与賀馬場	[志]
安住 辰十郎	米 14石4斗		55歳	欄干使者屋番	[伊→堀]
喜三郎		○柔術	21歳		
安住 國右衛門	米 23石4斗		69歳	中折村	[志]
石之助		○剣目録、火術二段	31歳		
安住 平兵衛	物 25石	○文学出精、槍目録、火術二段	32歳	片田江	[志→周]
赤司 三郎左衛門	物 34石5斗		53歳	豆津御番所	[馬]
八太夫		○剣免状	31歳		
秋月 良左衛門	米 9石		43歳	福母村	[又]
半九郎		○火術	19歳		
芦原 鐵之助	切 30石	○槍免状、文学独看	32歳	寺町	[六]
芦原 泰壽	米 9石		52歳	早津江	[計→千]
令硯			27歳		
合川 九兵衛	切 20石		47歳	灰塚	[馬]
小傳次		○文学出精、槍目録	24歳		
合川 次郎左衛門	切 20石		51歳	修理田	[縫]
平太郎			(記欠)		
荒木 雲八	切 20石	○剣目録	43歳	国分村	[志]

荒木	太左衛門	切 20石	◎槍免状 ○劍目録	42歳	枝吉町	[神→大]
	半平			19歳		
荒木	健作	米 9石		48歳	東津村	[六]
荒木	勘助	切 25石(内加5石)		51歳	正丹	[左→臯]
	鉄之進		◎文学出精、劍目録	26歳		
荒木	忠八	切 20石		46歳	小川村	[神→志]
	大之允			16歳		
荒木	兵太夫	米 9石	○火術	41歳	川副増田村	[志]
朝日	宇郁	切 35石		27歳	紺屋町	[迦→周]
(改名)→楊菴						
朝倉	多作	切 40石		16歳	与賀馬	[主→水]
朝倉	三兵衛	米 12石6斗		45歳	武藤村	[六]
朝倉	侃一	物 35石		19歳	八幡	[主]
朝倉	新七郎	米 13石6斗	○文学出精	28歳	藤ノ原村	[伊]
浅田	宗春	切 45石(内米20石)		36歳	唐人町	[縫]
青木	鶴之助	物 70石5斗		18歳	北御堀	[弥→隼]
姉川			(石高、年齢、居住地の記載なし)			

い(ゐを含む)

諫早	益千代殿	物成 1万0488石	知行2万6200石	◇親類同格	諫早
石橋	嘉左衛門	切 40石		辰70歳	多布施
	嘉源太		○劍免状	42歳	
石橋	三右衛門	切 35石→切42石(内役7石)		49歳	松原
	八助			22歳	
石橋	為太郎	米 32石4斗		22歳	水ヶ江
石橋	和太郎	切 30石		10歳	水ヶ江
	嘉平太		○槍免状	辰25歳	
石橋	寛蔵	米 9石		43歳	久富村
石橋	良太夫	米 9石 一代		61歳	(住所欠)
石川	傳右衛門	物 180石		65歳	片田江
	清次		○文学独看	37歳	
石川	寛左衛門	物 120石		52歳	深堀在番
	清九郎			22歳	
石丸	次左衛門	切 50石	○劍免状	38歳	今宿裏小路
石丸	六兵衛	物 46石		69歳	大井樋村
	十作		○文学独看	40歳	
	*二男は虎五郎(安世)				

石丸	六郎	米 32石4斗	○槍免状	30歳	松原	[志]
石丸	千兵衛	切 20石	○(種目・程度記無)	46歳	寺井	[水]
石丸	猪兵衛	米 9石 一代		54歳	龍泰寺小路	[市]
石隈	虎之助	物 120石		27歳	八幡小路	[計→千]
石隈	徳太夫	切 45石(内役5石)		60歳	鷹師	[馬]
	小太郎		○文学独看	24歳		
石隈	兵之助	米 27石	○文学独看、劍免状	26歳	八幡	[六]

石田	平左衛門	物 15石	切 20石		44歳	大野原	[志]
石田	利兵衛	切 25石			55歳	御蔵番	[馬]
	八百八		○劍目録		22歳	多布施	
石田	<u>五左衛門</u>	切 20石			<u>57歳</u>	大野原	[志]
	忠太夫		○槍目録		28歳		
石田	善太夫	切 20石	○火術奥儀、剣目録		41歳	田代	[志]
石田	<u>破左衛門</u>	切 15石			<u>66歳</u>	溝口村	[六]
	武平		○劍免状		46歳		
石田	助太夫	米 9石	○文学独看、剣目録		31歳	草場村	[左→臯]
石尾	左源太	物 87石5斗	○文学独看、剣		25歳	通小路	[六]
井原	<u>忠太夫</u>	物 80石			<u>50歳</u>	水ヶ江	[水]
	八郎左衛門		○槍免状		29歳		
井上	丈左衛門	物 90石			50歳	中ノ橋小路	[馬→弥]
	作左衛門		○文学独看		26歳		
井上	長兵衛	切 35石			42歳	浄土寺門前	[左→臯]
井上	仲民	米 27石			33歳	材木町	[志]
井上	玄沢	切 20石	一代		46歳	江見村	[迦→縫]
井上	善兵衛	米 9石	一代		58歳	愛敬島	[隼]
井内	左馬之允	物 60石	○文学独看		41歳	鬼丸	[弥→大]
井手	剛右衛門	切 30石(内加5石)	○文学独看、剣免状		36歳	水ヶ江	[馬]
岩松	源太夫	切 50石	○文学独看、槍免状		35歳	田代	[神→大]
岩松	善助	切 25石			63歳	高岸村	[縫→隼]
	<u>平七</u>		○槍免状		27歳		
(改名) →俊平							
岩瀬	文之允	切 30石			73歳	多布施	[馬]
岩村	右近	物 300石	○文学独看		31歳	中ノ小路	[播]
						◇着座	
岩村	大三郎	切 20石	○槍免状		42歳	御蔵番	[計→千]
生野	孝之助	物 200石			22歳	西御堀端	[神→大]
生野	次郎兵衛	物 120石			65歳	花房	[計→千]
	源藏				42歳		
	権之助				23歳		
生島	龍一郎	切 50石	○槍免状		45歳	大井樋村	[周]
池田	半九郎	物 230石(内役30石)			53歳	八幡	[馬]
	伸一郎		○文学独看、剣免状		43歳		
	文八郎		○文学独看、剣免状		24歳		
*池田半九郎(利睦)は直正側近の一人、弘化3(1846)2月、井内伝右衛門(南涯)が病氣で教職辞任後、文武の心遣(補佐役)を命じられ学館運営にあたり、嘉永元年からは請役相談役、御番方相談役を勤めた。幼少の鹿島支藩主熊次郎の家政向心遣役として鹿島藩政や教育行政にかかわる。							
池田	源兵衛	米 27石			43歳	古賀村	[周]
池田	平太夫	切 20石	○劍目録		49歳	水ヶ江	[周]
池田	作太郎	米 9石			12歳	中町	[又]
池田	玄瑞	米 18石			51歳	材木町	[伊→空]

池野 勝馬	切 25石	◎剣目録、槍目録、火術二段	27歳	中ノ小路	[志]
池尻 勘太夫	米 45石	○円極流砲術免状	56歳	田代	[志]
勘之允			16歳		
池尻 元榮	切 40石		41歳	伊勢屋町	[計→千]
伊香賀 壽左衛門	物 60石	○柔術	51歳	阿弥陀院小路	[播]
五郎次郎			25歳		
伊東 三之允	物 100石		21歳	通	[水]
伊東 次兵衛	切 60石→75石→150石(内加95石・役15石)	○剣	51歳	八幡	[周]
精助			25歳		
*次兵衛は「點心録」など嘉永3年～慶応4年の出張日記を残す(『佐賀県近世史料 第五編第一巻』所収)					
伊東 嘉兵衛	物 55石		48歳	西御堀端	[六]
榮一郎			22歳		
伊東 兵左衛門	物 55石5斗	○火術免状	37歳	田代	[志]
伊東 兵九	切 40石		(記欠)	馬責馬場	[神→志]
(跡) ⇨喜三郎			19歳		
伊東 弥右衛門	物 20石		55歳	椎小路	[神→大]
春次(改名) →源左衛門		○文学独看、槍目録	26歳		
伊東 辰之助	切 20石	○槍免状	31歳	中ノ橋小路	[縫]
伊東 八郎	物 25石	○槍免状	41歳	灰塚	[水]
伊東 兵太夫	物 20石		60歳	今津	[馬]
吉之進			23歳		
伊東 助次郎	切 20石	○剣目録、槍目録	27歳	与賀馬場	[志]
伊東 助作	米 9石	○剣目録、柔術免状	31歳	木塚小路	[又]
伊東 春洋	米 12石6斗		31歳	鷹師	[隼]
伊東 玄朴	米 12石6斗	一代	57歳	江戸	[伊]
入江 鶴一郎	物 80石		11歳	水ヶ江	[水]
入江 善太夫	切 45石		57歳	水ヶ江	[市]
兵之助		○文学独看、剣	35歳		
弥永 茂左衛門	切 20石		49歳	鷹師	[計→市]
嘉傳次			20歳		
出雲 右兵衛	物 70石	○剣	45歳	椎小路	[縫]
朋三郎			18歳		
市川 五郎	切 45石	○槍免状	39歳	鬼丸	[計→千]
源太郎			已12歳		
市川 新之允	切 20石		53歳	与賀馬場	[馬]
彦吉		○文学出精、剣目録	25歳		
市川 弥太郎	切 20石		55歳	水ヶ江→鬼丸	[隼]
鉄之助		○文学出精	27歳	鬼丸	
市川 虎之助	米 18石	○文学出精、槍目録	29歳	愛敬島	[左→臯]
一番ヶ瀬良左衛門	米 9石		57歳	金立村	[又]
勘助		○文学出精、槍免状	33歳		
今泉 孫十郎	物 25石		65歳	川久保	[周]
官一郎		○槍目録	34歳		
今泉 傳兵衛	物 20石		47歳	御番所	鬼丸 [水]
今泉 弥太夫	米 27石	○槍免状	51歳	愛敬島	[志]

辰之助 (改名) →十郎	◎文学出精、檜目録	25歳
今泉 清太郎 切 20石		25歳 神崎竹原 [水]
今泉 弥次郎 切 20石		47歳 妙安寺小路 [市]
今泉 儀八郎 米 9石 一代		68歳 御番所 [伊]
犬塚 米吉郎 物 200石		19歳 十間端 [市]
犬塚 三郎兵衛 切 50石		67歳 西御堀場 [神→千]
茂一郎	◎文学独看、剣免状	41歳
犬塚 忠右衛門 切 35石		49歳 川原小路 [馬]
與七郎	○文学独看	29歳
犬塚 文十郎 切 20石	○文学独看	40歳 三ツ溝村 [水→市]
石井 勘解由 物 500石		41歳 中ノ小路 大組頭
又八郎		25歳 ◇着座
石井 清左衛門 物 150石		39歳 枝 [組名記欠]
石井 嘉左衛門 物 140石	◎文学独看、檜免状	34歳 中ノ橋小路 [記欠]
長一郎		午13歳
石井 源一郎 物 100石		20歳 花房小路 [記欠]
石井 金八 物 75石	○剣免状	29歳 十間端 [記欠]
(改名) →雄左衛門		
石井 七郎左衛門 物 50石		32歳 十間端 [記欠]
休次郎		午7歳
石井 平学 物 120石		34歳 馬賣馬場 [記欠]
石井 嘉津太 物 25石		32歳 膽師 [記欠]
石井 彦蔵 物 55石		52歳 水ヶ江 [記欠]
駒吉郎		19歳
石井 平九郎 物 60石	◎文学独看、剣免状	26歳 水ヶ江 [記欠]
石井 大作 物 49石		20歳 鬼丸 [記欠]
*櫛山弥左衛門の長子、石井家を継ぐ、のち貞興。佐賀の役で征韓党に与みし、薩摩に逃れ、西南戦争で薩軍に投じ処刑される。		
石井 儀左衛門 物 80石		54歳 田代 [記欠]
与七		22歳
石井 八太郎 物 105石		17歳 川原 [記欠]
石井 小介 物 55石	◎文学独看、剣免状	38歳 鬼丸 [記欠]
金三郎 (改名) →文次郎		14歳
石井 六郎左衛門 物 100石		46歳 中ノ小路 [記欠]
室一郎 (改名) →小次郎		20歳
石井 九郎右衛門 物 100石		54歳 枝小路 [記欠]
又左衛門	○文学独看、柔術印可	32歳
石井 虎三郎 物 90石		16歳 花房 [記欠]
石井 茂左衛門 物 65石		37歳 武藤村 [記欠]
良三郎		18歳
石井 小源太 物 60石	◎文学独看、檜免状	38歳 鬼丸 [記欠]
石井 十蔵 物 41石	○文学独看	39歳 会所小路 [記欠]
石井 松之助 物 40石	○文学独看	27歳 高岸村 [記欠]
石井 傳兵衛 物 40石	○文学独看	39歳 十間端 [記欠]

	勘之助			18歳		
石井	七郎右衛門	物 25石	◎槍免状	45歳	八幡	[記欠]
	才吉			19歳		
石井	九左衛門	物 104石		77歳	西御堀端	[記欠]
	四郎左衛門			55歳		
	権弥			26歳		
石井	作左衛門	物 30石		48歳	袋村	[記欠]
石井	平之允	物 22石	◎槍印可	33歳	田代	[記欠]
石井	権太夫	物 25石		41歳	古賀村	[記欠]
石井	善太夫	物 30石	◎剣免状	38歳	隠村	[記欠]
石井	清八	物 25石(内加5石)	◎槍免状、柔術目録	34歳	八幡	[馬]
石井	才次郎	米 9石		8歳	大井樋村	[記欠]
石井	伊六	米 9石	◎體術目録	24歳	中ノ館	[記欠]
石井	弥左衛門	切 20石		49歳	武藤村	[記欠]
	彦十郎			17歳		
石井	兵蔵	物 30石(内加5石、役5石)		58歳	水ヶ江	[記欠]
	喜右衛門		◎剣免状、槍免状	39歳		
	忠作			17歳		
石井	傳右衛門	切 40石		68歳	木原村	[記欠]
	小三次			41歳		
石井	久右衛門	切 30石	◎槍免状	35歳	古賀村	[記欠]
石井	嘉弥太	物 29石5斗		52歳	中ノ小路	[記欠]
	廣一郎			已19歳		
石井	八左衛門	米 28石8斗	◎剣免状、槍免状	41歳	正丹	[記欠]
石井	五郎太夫	物 25石		61歳	高岸村	[記欠]
	橋一郎		◎文学出精、槍目録	26歳		
石井	忠左衛門	切 25石		44歳	広江村	[記欠]
	要之助			14歳		
石井	太左衛門	物 20石		51歳	古賀村	[記欠]
	龜一郎		◎剣目録	21歳		
石井	新右衛門	切 20石		39歳	轟木	[記欠]
石井	左弥太	切 20石	◎文学出精、剣目録	24歳	木塚	[記欠]
石井	官兵衛	切 20石		58歳	古賀村	[記欠]
	左内			23歳		
石井	又兵衛	切 20石		55歳	橋津	[記欠]
	儀一郎			25歳		
石井	進左衛門	切 15石	◎文学独看、剣目録	33歳	正里村	[記欠]
(改名) →龍右衛門						
	*名は鐵、号松堂。私塾純粹塾を開き、副島次郎、江藤新平、大隈八太郎らを教導					
石井	六郎兵衛	切 15石		42歳	御番所	[記欠]
石井	治兵衛	米 12石6斗	◎槍目録	29歳	三段田	[記欠]
石井	健一	米 10石8斗	◎文学独看、火術免状	33歳	本庄	[記欠]
石井	十郎左衛門	物 10石		72歳	増田村	[記欠]
	徳之進			39歳		
石井	七郎	米 9石		57歳	住吉村	[記欠]

又七			○円極流三段	37歳		
石井 一郎右衛門	米 9石			67歳	広江村	[記欠]
三郎助			○剣目録	20歳		
石井 譲助	米 9石		○剣目録	27歳	上古賀村	[記欠]
石井 秀四郎	米 9石			42歳	小城勝ヶ里	[記欠]
石井 孫右衛門	米 9石			48歳	久々牟田村	[記欠]
石井 幸右衛門	米 9石			21歳	東新庄村	[記欠]
石井 源太左衛門	米 9石			37歳	佐留志	[記欠]
虎一郎				10歳		
石井 藤太夫	米 9石			37歳	三溝	[記欠]
石井 久左衛門	米 9石		○剣目録	28歳	若宮原村	[記欠]
治右衛門				午16歳	与賀船津	[記欠]
石井 孫作	米 9石					
(跡)⇒孫一						
石井 九郎左衛門	米 9石			59歳	石土井村	[記欠]
兵作			○剣目録	21歳		
石井 藤五左衛門	米 9石		○槍目録、体術目録	44歳	鬼丸	[記欠]
石井 軍平	米 9石			63歳	上小副川山	[記欠]
綱一郎				32歳		
石井 左次右衛門	米 9石			60歳	白石原村	[記欠]
源五郎			○剣目録	21歳		
石井 嘉蔵	米 9石		○文学出精、剣免状、火術二段	30歳	古賀	[記欠]
石井 八郎助	米 9石			29歳	川上宿	[記欠]
石井 豊橋	米 14石4斗			17歳	名尾村	[組迦]
石井 長庵	米 9石			31歳	白石原	[組迦]

『石高帳』に石黒 貫二あり (石黒寛二、寛次)

《石黒 貫二 十五人扶持・米27石 高岸村 [志]》

*文政7(1824)年旧丹後田辺藩士石黒安信の三男、京都の廣瀬元恭の時習館で医術と理化学を学び、江戸、長崎に遊学する。佐野栄壽の推挙で佐賀藩精煉方御雇となり、汽船・電信機などを研究、蒸気機関の製作にあたる。安政2年の長崎海軍伝習に参加し、工学を学ぶ。文久元年遣欧使節に随行し、フランスに行く。明治以後工部省出仕、海軍省出仕。明治14年没

う

梅崎 二左衛門	切 30石(内加5石)			54歳	薦師	[又]
三郎助				13歳		
梅崎 勘兵衛	切 20石			69歳	高岸村	[志]
龍八			○剣免状、火術二段	42歳		
内田 権之進	物 90石		○剣免状	28歳	花房	[周]
内田 平治左衛門	切 20石		○剣目録、火術二段	28歳	本庄村	[志]
内田 次郎八	切 15石			18歳	木原村	[六]
内田 林三郎	米 9石			18歳	扇町	[六→志]
内田 官左衛門	米 9石		○剣目録	53歳	田代	[伊→李]
左太郎				20歳		
浦 忠左衛門	米 9石 一代			61歳	正丹	[隼]
上村 春庵	切 50石			38歳	牛島町	[志]

上野	源左衛門	切	35石		52歳	椎小路	[主]
	左源太				16歳		
上野	藤七	切	10石		68歳	本船津	[又→志]
	助十			◎文学出精、剣目録	31歳		
上野	平吾	米	9石	○剣目録	37歳	紺屋町	[左→臯]
牛島	与惣右衛門	物	60石		39歳	鷹師	[志→隼]
牛島	竹一郎	米	9石		13歳	来迎寺村	[又]
牛島	新五左衛門	米	18石	○槍免状	46歳	御藏番	[左→臯]
	清一郎				17歳		
牛島	藤三郎	切	20石		64歳	八戸村	[志]
	兵作				24歳		
牛島	傳太	切	20石	◎槍目録、剣目録	50歳	福島村	[志]
	又七				15歳		
嬉野	弥平次	物	175石2斗5	○文学	26歳	松原	[市]
嬉野	半左衛門	物	25石		57歳	福母村	[志→市]
	休蔵			○剣目録	24歳		
嬉野	才次	米	9石	○火術二段	39歳	寒水村	[志]
宇野	忠右衛門	米	9石	一代	已71歳	今宿表小路	[六]
鶴川	良左衛門	米	9石	一代	69歳	正丹	[隼]
鶴池	龍朔	米	9石		49歳	塩田	[迦]

え

江原	弥太郎	切	25石(内加5石)		15歳	水ヶ江	[隼]
江頭	精治	切	20石		23歳	渡都城宿	[周]
江頭	孫太夫	米	9石	○劍免状、火術	33歳	木塚	[伊→志]
江島	六郎	切	20石	○槍目録、火術二段	28歳	松原	[志]
江上	文哉	切	85石		29歳	寺小路	[迦]
江副	忠兵衛	物	80石		34歳	中ノ小路	[播]
江副	平八	物	260石	○槍免状	27歳	通	[神→大]
江副	六郎左衛門	物	100石		41歳	八幡	[馬]
江副	治左衛門	物	70石		43歳	松原	[弥]
江副	寛次	物	60石	○劍免状	39歳	高木町裏	[主→水]
江副	四郎兵衛	切	50石		42歳	古賀村	[馬→水]
江副	安兵衛	物	40石	○劍免状	31歳	多布施	[計→千]
江副	兵部左衛門	切	40石		50歳	木塚	[神→大]
	大助(改名)→清一郎			○文学独看	23歳		
江副	孫次郎	物	37石	○(種目・程度記無)	32歳	会所小路	[主→志]
江副	甚右衛門	米	28石8斗	○劍免状	43歳	西御堀	[主]
	弥一郎			○劍免状	18歳		
江副	半藏	米	23石4斗	○文学出精、槍目録	36歳	大野原	[志]
	三七				午35歳		
江副	奎之進	切	20石	○文学独看、槍免状	46歳	鬼丸	[周]
	新八郎				已12歳		
江口	伊久助	切	40石	○槍免状	39歳	水ヶ江	[弥]
江口	大助	切	30石		19歳	大野原	[志→縫]

江口 九郎助	物 40石	○文学独看	29歳	会所小路	[主]
江口 喜兵衛	米 9石		65歳	有重村	[六]
左兵衛			41歳		
江口 市郎右衛門	切 20石	○(種目・程度記無)	41歳	鬼丸	[計→千]
江口 十郎左衛門	切 30石	○火術	29歳	石長寺小路	[志]
江口 十助	切 15石		61歳	礒石村	[左→臯]
六郎助		○槍目録	36歳		
江口 孫太夫	物 10石		34歳	米屋町	[左→臯]
江口 作左衛門	切 20石		45歳	熊野川	[左→臯]
源六			22歳		
江口 小右衛門	切 25石	○文学出精、槍目録、火術二段	39歳	妙安寺村	[志]
江口 又一	物 6石、切14石	○劍免状	36歳	草場村	[伊→空]

《石高帳》のみ

江口 武七	米 9石、五人扶持		与賀馬場	[又]
三郎助				

江里口 九郎右衛門	切 40石		(記欠)	西精	[周]
枝吉 三郎左衛門	物 100石		49歳	西御堀	[六]
平治			26歳		
枝吉 忠左衛門	切 30石(内加5石)		70歳	南御堀	[計→千]
奎助		○文学独看	35歳		

*忠左衛門（号南濠）、奎助（名経種、号神陽）、第二郎はのち副島種臣

円城寺 権助	切 35石(内加5石)	○槍印可	35歳	川原	[隼→千]
--------	-------------	------	-----	----	-------

お (を)

太田 喜左衛門	物 133石5斗	○劍免状	40歳	鬼丸	[隼]
太田 輿右衛門	物 50石		23歳	鷹師	[志]
太田 惣太夫	米 36石		62歳	正丹	[伊→空]
相助			42歳		
太田 仁四郎	切 25石	○文学出精	18歳	枳	[計→千]
太田 辰之助	切 25石	○槍免状	44歳	大井樋	[左→臯]
廉吉郎		○(種目・程度記無)	22歳		
太田 清三郎	切 30石		16歳	神崎	[迦]
(改名)→精仙					
大木 <u>主計</u>	物 310石		60歳	十間端	大組頭
<u>兵部</u>			27歳	◇着座	
寅次郎			午17歳		
大木 民平	物 45石	○文学独看	25歳	会所小路	[志→馬]
*民平はのちの喬任					
大木 平吾	物 30石	○槍免状	34歳	鷹師	[馬]
大木 傳之進	切 25石(内加5石)		49歳	鬼丸	[弥]
傳		○文学出精、劍目録	31歳		

大木 市郎	米 9石	20歳	岸川村	[又→志]
大木 為三郎	米 9石	14歳	水ヶ江	[六]
大串 製裘之助	切 20石	4歳	欄干	[縫]
大中 春良	米 14石4斗	34歳	下高木	[左→迦]
大須賀 見栄 (跡) ⇨道貞	切 150石	已26歳	鷹師小路	[記欠]
大野 文太郎	物 70石	20歳	大野原	[志→馬]
大野 藤七 (跡) ⇨權七	米 12石8斗	(記欠)	田代	[左→臯]
大渡 富之進	切 40石	33歳	水ヶ江	[左→臯]
大渡 喜三太	切25石(内加5石) ○劍免状、火術免状	31歳	水ヶ江	[志]
大城 寛太夫	切 20石	60歳	大野原	[志]
忠吉郎 (改名) →卯右衛門	○劍目録	30歳		[千]
大隈 八太郎	物 120石	19歳	会所小路	[隼]

*八太郎はのち重信

大隈 藤左衛門	切 20石	43歳	寺町	[計→千]
大隈 英太郎	米 9石	17歳	古賀村	[伊→埜]
大隈 久左衛門	米 9石	◎火術二段、劍目録	50歳	高尾
大瀬 小左衛門	切 35石	59歳	通	[神→千]
村三郎		25歳		
大島 半右衛門	切 30石	○文学独看	40歳	寺井
大園 埃之允	切 35石	○劍免状	42歳	龍泰寺小路
大園 壽兵衛	切 20石 一代		59歳	山城殿屋敷内

*号梅屋、弘道館教諭

大庭 玄之進 (改名) →助藏	米 9石	◎文学独看、槍免状、蘭学四段	28歳	十間端	[志]
大庭 雪齋	切 25石		51歳	与賀馬場	[志]
權之助			15歳		

*雪齋は蘭学者。緒方洪庵門下、嘉永4年蘭学寮初代教導、安政5年医学寮が改称した好生館蘭方頭取となる。著訳書『訳和蘭文典』、『民間格致問答』

大石 小助	物 50石	○文学独看	30歳	松原	[馬]
大石 嘉源次	切 20石		70歳	久池井村	[馬]
軍平		○劍目録	35歳		
大石 又蔵	切 20石、外ニ役5石		69歳	会所小路	[隼]
丈左衛門		○劍目録	44歳		
與一郎			16歳		
大石 熊一郎	切 20石		20歳	会所小路	[志]
大石 良英	米 9石、外ニ役10石 一代		49歳	八幡小路医学寮	[隼]

*長崎の阿蘭陀通詞本木昌造の二男として生まれ、佐賀藩の鍋島山城（親類白石鍋島）侍医の大石家養子となる。長崎シーポルト塾、江戸の伊東玄朴の象先堂に入門、弘化元年藩主直正の侍医となり士籍に列せられる。嘉永2年に佐賀において種痘を実施。嘉永4年大庭雪齋とともに医学寮教授に就任、さらに好生館教授となる。

大坪	儘吉郎	切	35石		39歳	本庄通小路	[縫]
大坪	惣左衛門	切	30石		53歳	野口村	[神→志]
	萬太郎 (改名) →厨太夫			○槍	23歳		
大坪	新左衛門	切	30石		48歳	香田曲り	[水]
大坪	二左衛門	切	25石		76歳	神野村	[六]
	権一郎				48歳		
大坪	房之助	切	20石		19歳	西精	[計→千]
大坪	龍太夫	切	20石	○劍奥儀	42歳	十間端	[水]
大坪	助九郎	米	9石	○劍目録、体術目録	31歳	武藤村	[伊→塙]
大坪	嘉太夫	米	9石	○火術二段、劍目録	29歳	八田本村	[志→又]
大家	佐兵衛	切	25石	○文学出精、劍免状	25歳	田代	[計→千]
大塚	源吾	物	75石(内加5石)	○文学独看、劍免状	39歳	安住	[馬]
大塚	忠右衛門	切	50石4斗		52歳	仁比山	[縫]
	築之進				26歳		
大塚	文七郎	物	50石		42歳	片田江	[六]
大塚	莊橋	切	40石		72歳	武藤村	[市]
	清藏				46歳		
	辰之進				32歳		
大塚	勘左衛門	切	22石5斗	○槍目録	36歳	与賀馬場	[志→伊→塙]
	庫一郎				午15歳		
大塚	七三郎	切	20石	○槍目録、劍目録、円極流三段	35歳	正丹	[縫]
大塚	豊太郎	切	20石		22歳	田代	[隼]
大塚	朝次郎	切	20石	○文学独看	47歳	大財	[水]
大塚	治左衛門	切	20石		60歳	田代	[志]
	勘作			○火術二段	25歳		
大塚	厨之進	切	20石	○文学出精、劍目録	45歳	大野原	[志]
大塚	時助	米	9石	○槍目録、劍目録、円極流三段	39歳	今津	[左→臯]
於保	作右衛門	米	9石		55歳	古賀村	[志]
	弥兵衛			○劍目録	31歳		
於保	孫太夫	米	9石	○槍免状	30歳	住吉村	[又]
岡	鹿之助	切	30石(内加5石)		27歳	鬼丸	[志]

*遣欧使節隨行

岡	喜平太	切	20石	○劍目録	41歳	本庄村	[神→千]
岡本	忠兵衛	切	105石(内加5石)	○文学独看	40歳	通	[又→縫]
岡本	善右衛門	物	50石		20歳	鬼丸	[左→臯]
岡本	安右衛門	物	30石	○槍免状	48歳	御藏番	[伊→塙]
	廣次				20歳		
岡部	理七郎	物	500石		30歳	中ノ小路	[大組頭]
	(改名) →塙助					◇着座	
岡部	庸太郎	物	250石		15歳	中ノ小路	[伊→塙]
						◇着座	
岡山	大右衛門	物	60石		65歳	中ノ橋小路	[周]

瀧馬		◎文学独看、槍免状				
小山 辰之助	物 210石		19歳	片田江	[隼]	
小芦 藤之允	切 25石		53歳	木原	[志]	
孫八郎		◎火術二段	19歳			
小川 市左衛門	物 125石		50歳	本行寺小路	[播]	
剛一郎			21歳			
小川 覚左衛門	切 75石		36歳	椎	[神→大]	
小川 喜平太	物 35石		59歳	中ノ小路	[志]	
伊三郎		◎槍免状	35歳			
小川 五郎太夫	切 25石		42歳	山津村	[縫→志]	
小川 大之助	物 20石		13歳	若町	[神→大]	
小川 平之允	切 20石		52歳	愛敬島	[神→大→隼]	
壯内		◎槍免状	25歳			
小川 常武	米 12石6斗		33歳	今津	[伊→迦→塙]	
浅之助			午26歳		[伊→塙]	
小川 又右衛門	米 9石		43歳	岩田村	[伊→塙]	
文之助			20歳			
小原 五郎太夫	切 20石		54歳	八丁馬場	[又]	
小野 又太郎	切 20石		23歳	長瀬町	[志]	
小野 又左衛門	切 20石		74歳	江上町	[左→臯]	
儀一郎			41歳			
小野 吉左衛門	米 9石 一代		58歳	(住所欠)	[水]	
小野 文左衛門	米 9石 一代		已50歳		[周]	
緒方 吉之允	米 9石		21歳	田代	[伊→塙]	
恩田 茂十	物 50石	○(種目・程度記無)	31歳	朝日村	[神→大]	

か

河内 軍右衛門	米 25石2斗(内加5石)		53歳	古賀村	[計→又]	
覚助		○劍免状	20歳			
川浪 一左衛門	物 160石	○文学独看	30歳	本行寺小路	[弥]	
川浪 吉之丞	物 110石	○文学独看、槍免状	28歳	八幡	[六]	
川浪 大三郎	物 100石		18歳	中ノ小路	[水]	
寛五郎			午19歳			
川原 輿左衛門	切 25石		74歳	鬼丸	[市]	
善左衛門		○劍目録、円極流三段	40歳			
與一			14歳			
川原 千兵衛	切 20石		47歳	古瀬蘭芽	[馬]	
岩六			19歳			
新平			午26歳			
川原 伝次郎	米 9石		25歳	蛎久村	[又→志]	
(改名) →喜兵衛						
川崎 寛蔵	物 33石5斗	○文学独看	44歳	本庄通小路	[神→大]	
川崎 甚左衛門	切 25石		49歳	古賀	[馬]	
駒太郎			午14歳			
川津 門九郎	切 20石侍格	○火術二段	36歳	鬼丸	[志]	

川副	忠之允	物	30石	○槍印可	46歳	多布施村	[左→臯]
	儀一郎 (改名) →嘉源太				21歳		
川副	佐蔵	切	30石		61歳	御船藏番	[又]
	理平太 (利平太)				33歳		
川副	休庵	切	40石		41歳	白石	[六]
片山	傳七	切	45石	○劍免状	38歳	武藤村	[隼]
片江	久内	切	20石	○火術二段、槍	42歳	御番所	[志]
	久一郎			○蘭学四段	20歳		
片岡	四郎兵衛	切	50石		61歳	水ヶ江	[周→又]
	幾蔵				19歳		
甲斐	外記之助	物	50石		33歳	神崎三津	[水→志]
蒲原	清左衛門	物	170石	○文学独看、劍印可	39歳	馬賣馬場	[水]
蒲原	善左衛門	物	75石		68歳	水ヶ江	[左→臯]
	権太夫			○文学独看、槍免状	29歳		
蒲原	周平	切	25石	○槍目録	24歳	安住	[又→大]
蒲原	辰之允	切	20石		61歳	本庄	[市]
	嘉右衛門			○火術二段	42歳		
蒲原	傳右衛門	切	20石	○槍免状	39歳	木塚小路	[周]
菅	太次郎	切	20石		68歳	大野原	[志→縫]
	勝之進			○劍目録	31歳		
金丸	藤七	切	40石		48歳	古賀	[神→大]
	清右衛門			○(種目・程度記無)	23歳		
加賀	権作	切	55石	○槍免状	33歳	川原小路	[播]
加々良	藤五郎	物	40石	○槍免状	29歳	鬼丸	[神→志]
加々良	八郎兵衛	切	20石	○火術二段	22歳	鷹師小路	[志]
鹿江	辰一郎	物	100石		19歳	高尾	[縫]
垣内	嘉兵衛	切	25石		49歳	大野原	[志]
	百之允 (改名) →右馬進			○火術、劍	20歳		
鎗山	辰之助	米	9石	○火術二段	26歳	大野原	[志]
鐘ヶ江	次郎兵衛	物	74石		37歳	浄土寺門前	[左→臯]
鐘ヶ江	徳太郎	物	20石		28歳	加与丁村	[六]
鐘ヶ江	平蔵	切	20石		57歳	福母村	[計→千]
	傳之允			○文学出精、槍目録	29歳		
兼康	徳太郎	切	80石		18歳	水ヶ江	[縫→隼]
(改名) →謙一							
柿本	治右衛門	切	20石		63歳	八田本村	[周]
	勝左衛門			○劍目録	43歳		
柿原	善右衛門	切	21石		48歳	来迎寺村	[伊→塙]
勝屋	林作	切	20石		46歳	与賀馬場	[水]
勝屋	善兵衛	切	20石		64歳	植崎	[縫→志]
	熊之允			○槍目録、円極三段	36歳		
勝屋	兵衛	米	9石	○槍免状、円極三段、火術二段	44歳	大野原	[志→塙]
龜川	新左衛門	切	25石		67歳	古賀	[志]
	新八			○火術二段、体術目録	26歳		
龜田	六右衛門	物	45石		37歳	本庄通小路	[弥]

香月	己一郎 大吉 作一郎	切 20石	○槍目録	已13歳 49歳 戊13歳	白石原	[縫]
香月	又六 三十	切 20石	○文学独看、剣目録	62歳	草場村	[周]
川瀬	孫之允 又七郎	物 130石5斗	○文学独看	39歳 46歳 26歳	馬賀馬場	[志]
川瀬	官左衛門 嘉左衛門	米 23石4斗	○火術二段	68歳 37歳	今津	[志]
香田	左馬之允 太一郎	切 54石4斗		39歳 15歳	田代	[馬]
香田	榮八	切 35石	○文学独看、剣免状	25歳	会所小路	[又]
香田	新蔵 又一郎	切 30石(内役10石)		62歳 23歳	安住	[伊→弥]
香田	新八 清之允	切 25石	○劍目録	61歳 24歳	田代	[縫]
香田	新左衛門	切 20石	○文学独看、剣目録	31歳	西新庄	[計→千]
香田	元硯	切 40石		29歳	伊万里	[迦]

※香田は、『早引』では「カ」欄に掲載、『石高帳』では「コ」欄に掲載

き

北島	兵左衛門 又七郎	切 30石		53歳 23歳	与賀馬場	[縫]
北島	<u>兵吉郎</u> (改名) →謙一	切 20石		23歳	田代	[志→千]
北島	太兵衛 五郎太夫 虎之助	切 25石(内加5石)	○槍免状 ○劍目録	73歳 43歳 20歳	鬼丸	[隼]
北島	主一	物 30石		25歳	野町村	[神→志]
北島	傳助 熊吉郎	切 25石		56歳 14歳	隱村	[周]
北島	平之允	切 20石		43歳	田代	[縫→志]
北島	龍右衛門	切 20石	○文学出精、剣免状、柔術目録	40歳	多布施	[縫]
北島	寛次	切 20石		38歳	寺井	[左→臯]
北島	九八	切 30石		48歳	鷹師小路	[馬]
北島	泰道	米 9石	一代	69歳	高木町	[勘]
喜多島	藤太	米 18石		19歳	鹿島	[周]
北原	養一郎	米 46石8斗		11歳	牛島	[伊→空]
北原	有右衛門 彦四郎	切 80石(内加5石)	○劍免状	56歳 26歳	水ヶ江	[神→水]
紀伊	春策	切 45石		25歳	高木町	[迦]
木塚	喜左衛門 林八郎	米 9石	○劍、文学	48歳	本庄	[伊→空]
木原	義四郎	切 35石	○文学独看	已20歳 29歳	木原村	[縫]

*義四郎(隆忠) 弘道館、江戸昌平舎で学び藩学教諭、佐賀の役では中立党。後は私塾を開く。

木下 東一郎	物 168石		11歳 椎	[伊→塙]
木下 種一郎	物 40石		12歳 大島村	[六]
木下 吉之允	米 27石		71歳 安住	[計→千]
源吾		◎文学独看、剣目録	29歳	
木下 辰市	切 46石(内加5石)		25歳 鷹師	[播]
木下 富一郎	切 35石		10歳 八幡	[六]
木下 弥一郎	切 20石		13歳 大井樋	[神→大]

<

空閑 右兵衛	物 48石1斗5升	◎槍免状、火術免許	40歳 鷹師	[志→周]
空閑 九郎太夫	物 60石		56歳 会所小路	[又]
藤藏		○剣免状	27歳	
空閑 儀兵衛	切 20石		56歳 大野原	[志]
次郎八		◎文学独看、剣目録	27歳	
久我 百兵衛	米 14石4斗		48歳 田代	[志]
金五郎 (改名) →喜左衛門			21歳	
久我 善左衛門	米 27石		63歳 大野原	[志→縫]
内蔵之允		○剣目録、槍目録、火術二段	25歳	
久布白又右衛門	物 100石		40歳 八丁馬場	[主→水]
久米 弁吉	物 50石		19歳 田代	[左→臯]
久米 次左衛門	切 40石(内加5石)		58歳 八幡	[周→志]
丈一郎			18歳	

*次左衛門は邦郷。丈一郎はのち邦武、弘道館、江戸昌平斎で学び、弘道館教諭勤務、岩倉米欧視察団に記録係として随行、『米欧回覧実記』を著わす。『鍋島直正公伝』編纂

久池井 虎吉郎	切 15石	○文学出精	22歳 枝馬場	[志→塙]
久保 六郎助	切 40石(内加5石)		42歳 古賀	[弥]
久保 文才	切 70石			[記欠]
三圭			14歳	
久保 良作	米 9石	○文学独看	44歳 御番所	[六]
善之允			17歳	
神代 辰三郎	切 20石		12歳 九郎名村	[左→臯]
神代 治平太	米 18石	○剣目録、槍目録、火術免状	42歳 大堂津	[志]
柳山 弥左衛門	切 20石		63歳 鹿江村	[馬]
弥助			午16歳	

*弥助は石井貞興の弟、のち叙臣。佐賀の役で征韓党に与みし、のち教育に従事。

栗山 七郎右衛門	米 9石		38歳 朝日村	[伊→塙]
草野 二郎太夫	物 40石	○槍免状	37歳 三溝村	[六]
徳太郎			已14歳	
草場 忠兵衛	米 9石		47歳 鬼丸	[又]
市太郎			已11歳	
草場 瑛助	切 30石(内加10石)		70歳 馬賣馬場	[計→塙]
又三		○文学独看	23歳	

*瑛助は号佩川また珮川、もと多久家家来、弘道館助教授→教授。又三是又三郎、文藏、藩士八並次郎助の弟、弘道館、江戸昌平斎で学び瑛助の養嗣子となる。

楠田 宗巳	切	35石(内加5石)		65歳	安住	[市]
知才				27歳		
倉町 左傳次	物	130石		44歳	中ノ小路	[弥→播]
義一郎				20歳		
倉町 力四郎	米	9石		28歳	武尾大野村	[又]
倉永 仁太夫	切	60石(内加5石)		46歳	石長寺村	[隼]
倉永 五右衛門	物	50石		63歳	新地	[弥]
市助			○文学独看	32歳		
倉永 十三郎	切	60石		18歳	片田江	[市]
倉永 藤右衛門	物	40石		76歳	林敬村	[計→千]
藤藏				45歳		
倉永 藤太夫	米	9石	○火術二段	43歳	精町	[志]
熊野 小太郎	切	20石		8歳	八田本村	[周]

二

小池 善之允	切	20石	○火術二段	48歳	今泉	[志]
榮一郎				20歳		
小出 利兵衛	切	20石	○劍免状	36歳	川副今村	[志]
小出 大七	米	14石4斗	○文学独看	45歳	高柳村	[左→臯]
『石高帳』のみ						

《小出 千之助 五人扶持(米 9石)一代 大島〔志〕》

*蘭学寮で学ぶ。万延元年(1860)幕府の遣米使節団通詞として渡米し今後はオランダ語より英語が必要と感じ蘭学寮頭取大隈重信に進言。長崎で大隈とともにフルベッキに学ぶ。長崎致遠館学頭となるが、明治元年(1868)9月落馬事故で死去

小林 又右衛門	切	46石8斗75		50歳	江上町	[志]
勝蔵				20歳		
小林 傳内	切	20石		58歳	太樋村	[縫]
逸藏			○劍免状	24歳		
小林 傳平	米	9石 一代		60歳	御番所	[又]
小柳 春園	切	20石 一代医		32歳	諸富	[迦]
小柳 清三郎	切	20石		18歳	福島村	[伊→大]
小柳 忠左衛門	米	9石 一代		66歳	今泉	[市]
小森 喜一郎	切	30石		24歳	水ヶ江	[馬]
小森 覚右衛門	物	33石25(内加5石)		59歳	西御堀端	[播]
善之允			○劍免状	31歳		
小森 大七	切	25石	○火術二段	39歳	鬼丸	[志]
小森 清左衛門	切	30石		48歳	西御堀	[弥→馬]
久太郎				20歳		
古賀 大一郎	物	78石	○文学独看	46歳	精町	[馬]

*大一郎は来堂、古賀精里の孫、穀堂の長男。弘道館教授

古賀 忠左衛門	切	60石	○劍免状	39歳	水ヶ江	[播]
古賀 一平	切	35石	○文学、剣	25歳	龍泰寺小路	[市]
※一平は名定雄、通称一平、逸平。大木民平、江藤新平とともに佐賀の三平といわれる。勤皇運動論者。維新後品川県知事、佐賀藩大参事、伊万里県参事、佐賀県参事、のち香川県権令など歴任。						

古賀	源右衛門	切	39石		51歳	千栗御番所	[志→周]
	鶴太郎				20歳		
古賀	<u>佐一郎</u>	切	20石	◎槍目録	26歳	伊勢屋町	[志]
(改名)	→作太郎						
古賀	久太夫	切	20石5斗		42歳	神埼	[神→大]
古賀	太藏	切	20石	◎文学出精、剣印可、槍免状	39歳	水ヶ江	[周]
古賀	精藏	切	20石	◎文学独看、槍免状	41歳	鷹師	[神→大]
	萬虎				巳14歳		
古賀	郡之允	米	9石		49歳	大詫摩村	[伊→空]
	虎次郎			◎文学出精、剣目録	29歳		
古賀	元恭	物	65石(内加5石)		53歳	蓮池	[伊→空]
	元才				23歳		
古賀	元悦	米	18石		22歳	正丹	[市]
古賀	太右衛門	切	20石		45歳	田代	[主→水]
	源九郎				16歳		
古賀	玄令	切	70石		45歳	諸富	[神]
	元節				23歳		
古賀	権作	物	120石		23歳	田代	[計→千]
古賀	文太	切	20石	◎槍目録	37歳	早津江	[志]
古賀	孫之進	切	20石	◎槍目録、火術	26歳	大野原	[志→周]
古賀	喜三郎	切	20石		14歳	古賀	[縫]
古賀	良右衛門	切	20石		56歳	西八田	[計→千]
	大之進				17歳		
古賀	源四郎	米	23石4斗	◎文学出精、剣免状	38歳	西御堀	[計→千]
古賀	忠四郎	米	9石	一代	61歳	今宿裏小路	[左→臯]
古賀	卯藏	切	20石	◎剣目録	28歳	田代	[志→又]
古賀	権左衛門	米	9石	一代	69歳	下砥川村	[市]
古賀	軍八郎	切	25石		49歳	野町村	[伊→空]
	次郎助			○剣目録	23歳		
古瀬	十之允	切	20石	◎文学出精、槍免状	36歳	鷹師	[縫]
洪	助之進	物	86石4斗	○文学独看	32歳	会所小路	[弥→播]
後藤	又次郎	切	100石		36歳	長崎	[志]

名

斎藤	用之助	米	9石	◎文学出精、火術二段	27歳	川副山領村	[志]
斎藤	勝一郎	米	9石	○剣目録	22歳	伊万里	[伊→空]
斎藤	権助	切	20石	◎文学独看、剣免状	30歳	水ヶ江	[市]
斎藤	弥平太	米	9石	○剣免状	27歳	古賀村	[志]
酒井	源五郎	切	20石	◎槍目録、剣目録	39歳	枳馬場	[縫→臯]
坂部	又右衛門	物	400石		57歳	西御堀端	大組頭
	又十郎				24歳	◇着座	
坂部	<u>與右衛門</u>	切	45石(内加5石)		47歳	枳小路	[六]
	晋三郎			○文学独看	22歳		
坂部	久平	切	20石		42歳	田代	[志]

坂井 助之丞	切 20石	○剣免状	42歳	龍泰寺小路	[六]
坂井 佐兵衛	切 40石	○槍免状	43歳	古賀	[弥→縫]
辰之允			24歳		
坂井 次郎兵衛	米 9石 一代		51歳	鷹師	[左→臯]
坂井 清左衛門	米 9石 一代		55歳	今宿裏小路	[隼]
坂本 徳之助	切 20石	○文学出精、火術二段	31歳	小原村	[志]
坂本 源五郎	米 9石		17歳	豆津	[又]
坂本 文悦	米 18石		28歳	木原	[隼]
坂田 大之允	米 20石	○火術二段、剣目録	31歳	多布施	[志]
坂田 甚左衛門	切 20石		50歳	平松村	[志]
孫一郎 (改名) →清之允		○剣目録、火術二段	25歳		
坂田 平之允	切 20石	○剣目録	46歳	椎	[市]
嘉一郎			17歳		
佐々木 宇右衛門	物 100石	○文学独看	40歳	与賀馬場	[馬]
佐野 幸兵衛	物 187石5斗		49歳	馬責馬場	[左→臯]
又四郎		○(種目・程度記無)	28歳		
佐野 穂仙	切 70石		60歳	枳小路	[隼]
栄壽左衛門	一代俗		35歳		
* 栄寿左衛門 (常民)、11歳で佐野常徵 (通称穂仙) の養子となり佐野家を継ぐ。14歳の時弘道館内生に抜擢された。伊東玄朴の象先堂、緒方洪庵の適塾などで蘭学を学ぶ。安政2(1855)年幕府海軍伝習所に入る。佐賀藩海軍創設、科学的研究に尽くす。日赤創始者					

澤野 富助 (改名) →源左衛門	物 100石5斗	○文学独看	36歳	十間端	[弥→空]
澤野 大之允	切 30石		32歳	高岸村	[縫→志]
澤野 文作	切 45石		45歳	田代	[志]
虎六郎			23歳		
澤野 泰雲	米 12石6斗		53歳	元町	[神→大]
澤野 良才	切 40石		51歳	松原	[縫]
沢邊 寅次郎 (改名) →司馬太	切 35石		29歳	久保田	[志]
澤 傳吾	切 25石	○槍目録、火術二段	37歳	田代	[志→縫]
相良 源兵衛	物 90石		61歳	北御堀	[志]
寛藏		○槍免状、火術免状	31歳		
相良 五兵衛	物 200石		45歳	中ノ橋小路	[神→大]
林八郎			19歳		
相良 平作	切 25石		32歳	安住	[縫]
相良 六郎助	切 45石(内加5石)		24歳	南御堀	[播]
相良 宗左衛門	切 20石		33歳	鬼丸	[隼→播]
* 宗左衛門は宗蔵					

相良 柳庵 寛齋	米 61石2斗		54歳	伊万里	[計→隼]
相良 吾郎 (改名) →清左衛門	米 9石	○剣	29歳		
相良 弘庵	米 36石		17歳	大島村	[六]
			20歳	妙安寺小路	[迦]

*弘庵（知安）は維新後の日本の近代医学教育の基礎を作った

實松	幾一郎	切	35石(内加10石・米9石)	(記欠) 鬼丸	〔神→大〕
(跡)	⇒五郎			16歳 鬼丸	
佐藤	文平	米	36石	34歳 江戸	〔市→又〕
し					
執行	権之助	物	300石	33歳 水ヶ江	〔播〕
				◇着座	
執行	主一	物	50石	◎文学独看、槍免状	36歳 松原 〔周〕
執行	春庵	切	40石		37歳 犬井道村 〔迦〕
執行	権太夫	物	37石5斗		57歳 木塚 〔播〕
	豊助（改名）	→和兵衛			31歳 〔縫〕
執行	徳左衛門	米	32石4斗		46歳 大島村 〔志〕
執行	十枝	米	27石		52歳 永池村 〔志→臯〕
	愛之助				25歳
執行	兵次	切	20石		52歳 本庄 〔隼→千〕
執行	幸次郎	切	20石	○剣目録	22歳 大野原 〔志→水〕
執行	孫八	米	9石	○槍免状	33歳 大井樋村 〔伊→志〕
執行	喜左衛門	米	9石	○火術二段、剣目録	37歳 岸川町 〔志〕
下村	仁之允	物	160石	○文学独看（武芸記無）	35歳 南御堀端 〔六〕
	麟一郎				午8歳
下村	八左衛門	物	55石		55歳 馬責馬場 〔主〕
	源六			○剣免状（文学記無）	29歳
下村	三郎左衛門	物	35石		44歳 鷹師 〔周〕
下村	安左衛門	物	150石		38歳 鬼丸 〔周〕
下村	忠左衛門	物	40石		68歳 精町 〔縫〕
	為次郎				23歳
下村	虎之助	物	25石	○文、剣	21歳 大野原 〔志〕
下村	忠太夫	物	20石	○文学独看、剣目録	37歳 十間端 〔縫〕
下村	大助	切	30石		46歳 田代新村 〔神→千〕
	大吉郎				巳13歳
下村	小一郎	切	12石5斗		40歳 薙木 〔左→臯〕
	市太郎				18歳
下村	丈兵衛	米	9石 一代		68歳 田代 〔又〕
島内	彦次郎	切	20石		(記欠) (記欠)
(跡)	⇒鉄一郎				午16歳 妙安寺小路
島内	形左衛門	切	35石(内加5石)		82歳 正丹 〔播〕
	藤吉				19歳
島内	七右衛門	切	30石		52歳 江島村 〔志〕
	栄之助				23歳
島内	五郎右衛門	切	30石		43歳 今泉 〔志〕
	萬作				18歳
島内	千兵衛	米	9石	○文学出精	30歳 仁比山 〔六〕

島内 丈左衛門 権之助	切 20石	◎槍免状	61歳	大宝村	[周]
島内 吉左衛門	米 9石 一代		36歳		
島田 南嶺 東洋	米 27石		65歳	(住所欠)	[又]
島 團右衛門	切 25石	◎文学独看、槍目録	50歳	松原	[市]
			31歳		
			35歳	片田江	[市]
*團右衛門(義勇) 文政5(1822)生まれ、少壯にして弘道館に入り、また枝吉神陽に学ぶ。安政年中に江戸遊学、藩主の命で蝦夷権太探検。明治2(1869)年北海道開拓使判官として北海道開拓、札幌の街つくりの基礎を築く。秋田県権令等。佐賀の役で憂国党の領袖。					

島 源四郎	物 55石	◎柔術、槍	21歳	鷹師	[志→隼]
島 定左衛門	米 9石 一代		52歳	三溝村	[六]
柴田 良助	切 20石	◎文学出精、剣目録	35歳	田代高田	[馬]
柴田 兵之允	物 55石		36歳	枳馬場	[志]
柴田 和左衛門 兵之助	切 20石		53歳	愛敬島	[又]
		○剣	18歳		
柴田 清兵衛	米 9石		32歳	朝日村	[又]
志波 喜左衛門 大之助	物 60石		51歳	会所	[志]
			18歳		
志波 左轉太	物 120石	○円極流免状	44歳	鬼丸	[伊→空]
志波 太兵衛	切 30石		48歳	片田江	[馬]
藤太夫			23歳		
志波 彦助	切 20石	○剣免状	30歳	今宿裏	[計→志]
清水 新左衛門	切 45石	○文学独看	29歳	馬責馬場	[播]
清水 新右衛門	米 9石 一代		53歳	鈴木ノ内	[馬]
志田 有兵衛 有一郎	物 37石4斗4		56歳	正丹	[計→千]
			20歳		
志津田 孫次郎 猪一郎	切 20石		52歳	御蔵番	[志]
			16歳		
志津田 周齋	米 18石		47歳	八戸町	[勘→迦]
七田 作太夫 忠八 孫八郎	米 9石		65歳	志波屋村	[又]
			37歳		
小代 七四郎	米 45石	○文学独看	33歳	正丹	[弥]
小代 清八	物 50石		23歳	鬼丸	[隼]
城島 大七 大之進	切 20石	○文学独看、剣目録	61歳	泰長院門前	[主→水]
			28歳		
城島 淡堂	切 30石		44歳	通	[市]
庄島 治兵衛	米 23石4斗		59歳	古賀村	[主→水]
清五左衛門		○文学独看、剣免状	30歳		
庄野 嘉左衛門	切 20石		37歳	天祐寺町	[周→六]
重松 清次	物 70石	○槍免状	33歳	十間端	[弥]
重松 基右衛門	切 25石	○文学独看	33歳	正丹	[縫]
重松 朝之允	切 34石	○火術免状、剣免状	40歳	鬼丸	[馬]
重松 大右衛門 林五郎	切 20石		65歳	妙安寺小路	[志]
		○火術二段	35歳		

重松 判之允	切 20石		51歳	正丹	[六]
渋谷 助四郎	物 100石	○槍免状	32歳	片田江	[主→水]
(改名) →十郎兵衛					
渋谷 佐助	切 25石	○剣目録、文学	43歳	高尾	[周]
富一郎			18歳		
渋谷 忠兵衛	切 60石(内加5石)		39歳		[志]
渋谷 良次	米 9石 一代		29歳	正丹	[志]
塩田 通圓	米 18石		47歳	元町	[馬]
白濱 次郎左衛門	切 25石(内加5石)		56歳	十間端	[隼]
代四郎		○剣皆伝	29歳		
白濱 嘉右衛門	切 20石		69歳	中折村	[神→大]
関左衛門		○文学独看、剣目録	33歳		
勝屋 猪八郎	米 18石		14歳	鷹師	[隼]

す

須吉 市兵衛	米 36石	○剣免状、槍	36歳	袋村	[志→臈]
須吉 勝之允	切 20石	○剣目録、火術二段、体術目録	33歳	灰塚村	[志]
須吉 大吉郎	切 30石		16歳	今津	[計→千]
(改名) →清之助					
末次 惣右衛門	物 20石	○剣目録	44歳	椎小路	[伊→志→埜]
豊之助		○(種目・程度記無)	19歳		
杉町 孫右衛門	物 50石		65歳	神崎竹原	[主→志]
半次郎			25歳		
杉町 房次郎	切 20石	○槍目録	26歳	鍋島村	[又]
杉町 七郎右衛門	切 30石		44歳	妙安寺小路	[計→千]
杉町 権兵衛	切 20石	○文学出精	40歳	正丹	[六]
杉町 平七	物 20石		31歳	新地	[神→志]
杉町 徳一	切 20石		11歳	新郷	[主→水]
杉町 七郎兵衛	物 30石	○槍免状	32歳	鷹師	[志]
杉町 与左衛門	米 9石		42歳	岸川町	[又]
杉原 弁左衛門	米 23石4斗	○円極流三段	68歳	田代	[左→志]
力藏			43歳		
杉本 兵力	物 105石		49歳	枳小路	[縫]
甚六			21歳		
杉本 一左衛門	切 20石	○剣	64歳	与賀馬場	[又]
善治			23歳		
角田 弥十郎	米 9石		64歳	川上	[又]
源太夫			34歳		
角 十郎右衛門	物 95石(内加5石)		65歳	八幡	[播]
麻之助			19歳		
角 作左衛門	切 150石		64歳	多布施	[縫]
五左衛門		○槍免状	38歳		
鈴木 作之進	切 30石	○剣免状	33歳	本庄溝口	[志]

『石高帳』のみ

杉谷 雍助 五人扶持米 9石 一代 点合町裏小路 [志]

*蘭学者。大砲鋳造にあたり、蘭書を翻訳して冶金述を研究。藩命によりオランダ船に乗り質問し、航海術・造船術・砲術などの伝習を受けた。

せ

關 千左衛門	物 55石		53歳	椎小路	[又→大]
大五郎			20歳		
關 藤太夫	切 25石(内加5石) ○劍目録		50歳	鬼丸	[隼]
惣六			20歳		
關 儀左衛門	物 135石3斗64 ○文学独看、槍免状		41歳	椎小路	[縫]
峯太郎			14歳		
關 判藏	物 28石 ○文学独看、劍目録		45歳	西御堀端	[周→千]
左右平			16歳		
關本 卵三郎	米 18石		13歳	鷹師	[又]
千住 久左衛門	物 40石		63歳	尾崎村	[縫→志]
六郎左衛門			40歳		
千住 大之助	切 20石 ○文学独看、槍目録		42歳	鬼丸	[市→弥]
*大之助(代之助)号西亭名鍵任など、文化13(1816)年生まれ藩学教諭など勤め、元治元(1864)年御側頭兼目付役。直正の信任最も厚く、常に直正の左右に侍した。『直正公御年譜地取』『直正公譜』の編者					
千住 平作 (改名) →新兵衛	切 30石 ○劍免状		30歳	嘉瀬町	[馬]

そ

早田 卵右衛門	切 55石(内加5石)		62歳	水ヶ江	[播]
十助	→切50石 ○文学独看、槍免状		30歳		
早田 五郎左衛門	切 20石 ○(種目・程度記無)		49歳	片田江	[志]
大兵衛			18歳		
早田 垣助	切 20石		52歳	広江村	[神→千]
又六			18歳		
園田 市郎兵衛	物 55石(内加5石)		46歳	花房	[水]
宗 大三郎	切 25石		56歳	広江村	[左→臯]
貞一			17歳		
副島 五郎太夫	物 130石(内加10石)		47歳	大崎	[隼]
清太郎			23歳		
副島 幸左衛門	切 55石(内加5石)		56歳	片田江	[伊→幸]
達太夫			44歳		
副島 勝之進	切 40石		26歳	高岸村	[志]
副島 彦之允	切 35石		46歳	御茶屋番	[縫]
謙助	○文学独看、劍免状		29歳		
副島 要作	切 30石		23歳	長瀬町	[志]
副島 金吾 (改名) →三郎兵衛	切 30石 ○槍、剣		44歳	妙安寺小路	[縫]
副島 一之助	切 30石		23歳	礫石村	[神→志]
副島 新右衛門	切 25石 ○劍免状 (文学記載無)		41歳	御番所	[神→志]

喜平太			17歳		
副島 六右衛門	切 25石	○剣目録	61歳	御番所	[計→千]
吉之進		○火術免状	29歳		
副島 左源太	切 20石		41歳	鬼丸	[志]
元吉郎			17歳		
副島 十郎助	切 20石	○火術免状、剣目録	45歳	鬼丸	[志]
副島 八右衛門	切 20石		48歳	本庄	[隼]
副島 五左衛門	米 18石		50歳	今津	[六→志]
副島 卵吉郎	米 9石		14歳	新庄	[伊→李]
副島 忠太夫	米 9石		52歳	北島村	[又]
安一郎			17歳		
副島 四郎兵衛	米 9石		33歳	伊万里	[又]
副島 良菴	米 9石	(記欠)	28歳	相応村	[迦]
謙堂	一代医師				

た

竹田 文右衛門	物 200石	○槍免状	34歳	辻ノ堂	[計→千]
竹野 金兵衛	物 100石		62歳	水ヶ江	[播→周]
喜傳太			20歳		
竹下 文吉郎	切 30石	○槍免状	47歳	鬼丸	[周→志]
孫一			19歳		
多々良 勝吉郎	物 135石		24歳	精町	[計→志]
多々良 形左衛門	物 30石	○剣免状	38歳	片田江	[馬]
多々良 輿左衛門	物 12石5斗		25歳	広江村	[周]
多々良 貞右衛門	米 9石	○槍目録、円極流三段	35歳	愛敬島	[六]
多伊良 大之助	切 30石		58歳	大井樋村→鬼丸	
文治			19歳		[志]
多伊良 三左衛門	物 29石	○文学独看、槍目録	28歳	鬼丸	[周]
多久 長門殿	物成8693石8斗	知行2万1734石5斗		◇親類同格	
多久 伊織	物 400石		48歳	水ヶ江	士組代
綏吉郎				◇着座	
多久 縫殿	物 200石		48歳	枳小路	士組代
萬太郎			15歳		
多久 勘助	物 120石	○劍奥義	42歳	中ノ館	[左→臯]
勝太郎			17歳		
武雄 左平太	切 135石		23歳	武雄屋敷内	[馬]
武富 七郎兵衛	切 45石		55歳	鬼丸	[左→臯]
武富 賴太郎	切 20石	○剣目録	29歳	愛敬島	[志→馬]
武富 三太夫	切 20石		41歳	志波屋村	[周]
猪太郎			18歳		
武富 半兵衛	切 20石	○槍目録	30歳	田代	[左→志]
武富 兵左衛門	切 20石	○剣免状	30歳	新庄増田	[馬]
武富 弥内	米 9石	一代	73歳	正丹	[又]
武富 文之助	米 9石	一代	49歳	八幡	[左→臯]

*弘道館教諭、名は定保、号坦南など

武富 権六	米 9石	一代	70歳	正丹小路	[市]
田雜 五郎左衛門	米 9石		30歳	江見村	[伊→塙]
田雜 源六	米 9石	◎剣目録、槍目録、火術	29歳	八幡	[志]
田村 形左衛門	米 14石4斗		56歳	相応津	[又]
幹之助		◎文学出精、剣目録	23歳		
田原 源兵衛	物 120石	◎槍免状	41歳	十間端	[水]
丈吉郎			18歳		
田原 助之允	物 40石		40歳	正丹	[志→馬]
田原 源左衛門	切 20石	◎文学独看	35歳	大野原	[志→千]
田原 右源太	米 18石	◎火術二段	40歳	正丹小路	[志]
田原 勘一郎	米 12石6斗		14歳	正丹	[志]
田原 大八	米 9石		34歳	大野原	[志→六]
傳次郎			26歳		
田原 周甫	米 9石		74歳	新庄村	[志]
文哉			36歳		
田口 忠藏	切 25石	◎文学出精、火術二段	29歳	多布施	[志]
田中 善右衛門	物 220石(内加51石6斗・役70石)		55歳	片田江	[志→水]
禮太郎			29歳		
田中 左弥太	物 110石		65歳	西御堀端	[周→又]
新左衛門		◎文学独看、火術免状、剣免状	36歳		
田中 幸一郎	物 80石		14歳	水ヶ江	[市]
田中 時之允	切 70石		70歳	中ノ小路	[六→市]
善左衛門			46歳		
寅五郎			15歳		
田中 五郎左衛門	物 110石5斗	◎文学独看、槍免状、剣免状	46歳	中ノ小路	[計→千]
田中 官左衛門	物 55石		55歳	多布施	[周]
大六郎			已12歳		
田中 虎六郎	物 45石	◎文学独看	42歳	天祐寺町	[左→臯]
村之助			19歳		
龍之助			午22歳		
田中 藤太夫	切 40石		47歳	大野原	[志→馬]
小平太			19歳		
田中 熊太郎	物 60石		6歳	会所小路	[志→塙]
田中 七兵衛	切 30石(内加5石)		73歳	田代	[周]
喜十郎		◎文学独看	36歳		
田中 九左衛門	米 27石		57歳	鷹師	[志]
源右衛門		◎火術二段	25歳		
田中 三左衛門	切 20石		55歳	高尾	[志→周]
敬蔵		◎文学出精、蘭学四段	23歳		
田中 與兵衛	切 20石		50歳	与賀馬場	[志]
新右衛門		◎火術二段、剣目録	31歳		
田中 太右衛門	切 20石		58歳	大財村	[志]
次郎太夫		◎火術二段	31歳		
田中 莊兵衛	切 20石	◎剣皆伝	49歳	正丹小路	[計→千]

田中	六右衛門	切 20石		47歳	精町	[志]
	勝之進			13歳		
田中	太郎左衛門	切 20石		61歳	南里村	[志]
	大之進		◎火術免状	32歳		
田中	覚兵衛	切 25石(内加5石)○剣免状		(記欠)	本庄	[水]
	吉太郎	→切15石		13歳		
田中	善兵衛	米 19石8斗		40歳	木原	[左→臯]
田中	龍太夫	米 9石		32歳	下野村	[伊→空]
田中	萬四郎	米 9石		46歳	東高木村	[又]
	弥一郎			18歳		
田崎	内蔵之助	米 9石(五人扶持)○槍免状、火術二段		34歳	坪ノ上村	[志]
田代	小左衛門	切 35石 ○剣免状		41歳	御藏番	[縫]
(改名)	→大助					
田代	七郎右衛門	物 26石 ○剣目録		47歳	妙安寺小路	[左→臯]
	荒治(改名)	→勘助		14歳		
田代	源一	切 20石 ○文学出精		30歳	今泉	[水]
田代	孫三郎	米 19石8斗 (印欠)円極流免状		56歳	古賀	[志→周]
	兵助	○文学、槍		25歳		
*孫三郎は築地反射炉築造会計係、「御鑄立方七賢人」の一人と称された。安政5年に流行したコレラに罹患し死去						

田代	善太郎	米 9石		13歳	木ノ角村	[又]
田代	源兵衛	米 9石 ○火術二段		45歳	末次村	[志]
高柳	市兵衛	米 34石2斗		41歳	鷹師	[志→市]
高取	次郎太郎	切 20石 ○文学出精、槍目録		29歳	与賀馬場	[計→千]
高木	長左衛門	物 200石(内加47石)		68歳	北御堀端	[若触]
	勘之允			21歳		
高木	大助	物 100石 ○剣免状		28歳	石長寺村	[弥]
高木	榮吉郎	切 100石		(記欠)	鷹師	[又]
	忠四郎			23歳		
高木	彦次郎	物 80石 ○槍免状		37歳	水ヶ江	[神→大]
高木	新兵衛	切 38石 ○槍免状、剣免状		39歳	片田江	[六→弥]
高木	勘兵衛	物 34石5斗 ○槍免状、剣免状、柔術免状		35歳	水ヶ江	[市]
高木	利兵衛	切 25石 ○剣免状		38歳	西今宿	[計→千]
高木	彦之進	米 9石		61歳	新庄村	[又]
	文六	○文学独看、剣目録		25歳		

*天保4(1833)生まれ、のち秀臣、明治3年藩大属、5年奈良県出仕、明治15年司法大書記官、20年東京控訴院検事長

高木	孫右衛門	米 9石 ○火術二段、槍目録		37歳	西精村	[志]
高木	玄堂	切 50石		34歳	精町	[迦→大]
高木	元仲	米 27石		34歳	八幡	[隼]
高木	玄哲	米 18石		38歳	材木町	[左→臯]
田尻	弥作	米 9石		24歳	豆津	[又]
田尻	善五左衛門	米 9石 一代		55歳	愛敬島	[市]
高岸	五太夫	切 25石 ○槍目録		41歳	鬼丸	[左→臯]

高岸	兵次	切	20石	◎火術免状、剣免状	35歳	江上町	[志]
高岸	平兵衛	切	20石		60歳	御番所	[水]
	惣次郎 (改名) →甚六				17歳		
高岸	清之允	切	20石		45歳	大野原	[志]
高岸	壯之允	米	18石		50歳	仁山	[志→縫]
	喜一郎				已15歳		
高岸	勝之進	米	14石4斗		33歳	江上町	[左→臯]
多賀	五郎左衛門	米	9石	○剣目録	38歳	多布施	[伊→空]
高島	久兵衛	米	10石8斗	◎火術二段、槍免状、剣目録	33歳	正丹小路	[志]
立川	兵藏	物	30石		56歳	鬼丸	[志]
	辰之助 (改名) →千兵衛				24歳		
詫摩	松次郎	米	9石		10歳	上三津村	[伊→空]
谷	作之助	米	45石	○火術免状	33歳	八幡	[志]
谷口	達左衛門	切	20石	○剣免状、円極流三段	41歳	鬼丸	[左→臯]

ち

張	玄一	米	59石8斗	○文学独看	37歳	十間端	[馬→弥]
千布	左兵衛	物	55石	○文学独看	39歳	新地	[播→六]
	清次				22歳		
千布	右喜太	物	50石	○火術免状	35歳	田代	[志]
千布	文左衛門	切	20石	○文学出精、剣免状	38歳	浄土寺門前	[六]
千葉	頼母	物	270石	○文学独看	29歳	川原小路→西御堀端	
					◇着座	[弥]	

千葉	八助	物	200石		55歳	八幡	[水]
	小次郎			○剣免状	30歳		
千々岩	六右衛門	切	20石	○剣免状	33歳	木塚小路	[六]
千々岩	彦一郎	米	9石	○槍目録	37歳	江上町	[伊→空]
陣内	幸右衛門	物	65石(内加10石)		64歳	椎小路	[播→弥]
	金八 (改名) →又八			○槍免状	24歳		
陣内	一八	切	25石		20歳	古賀	[縫→志]
陣内	恕助	米	32石4斗		46歳	御蔵番	[計→千]
陣内	忠八	米	10石8斗	○槍免状	30歳	岸川村	[伊→空]

つ

堤	與左衛門	物	75石		36歳	鷹師	[志]
	(改名) →新之允						
堤	弥左衛門	切	60石		67歳	中ノ小路	[左→臯]
	平次郎			○槍免状	38歳		
堤	喜六	切	35石		22歳	大野原	[志]
堤	善兵衛	切	35石4斗		50歳	田代	[播]
	三四郎				18歳		
堤	源七郎	物	28石		55歳	水ヶ江	[周]
	久之允			○文学出精、剣目録	27歳		

* 「文武課業録」の編者

堤 八郎助	米 27石	○(種目・程度記無)	32歳	弘道館	[馬]
堤 審左衛門	米 23石4斗・外二加米5石	○文学出精、剣目録	58歳	神野御茶屋	[市]
辰十郎		○文学出精、剣目録	30歳		
堤 伴太夫	切 20石		58歳	江口村	[六]
與十		○文学独看、槍目録	29歳		
堤 寸四郎	米 9石	○槍目録、剣目録	35歳	水ヶ江	[伊→李]
辻 勝平	物 100石(内加5石)	○槍免状	29歳	水ヶ江	[神→大]
辻 小左衛門	物 83石		45歳	通	[弥→周]
辻 義兵衛	米 27石		58歳	水ヶ江	[計→千]
佐傳次			16歳		
辻 寛一郎	切 25石		54歳	御番所	[志]
喜太郎		○火術二段、剣目録	31歳		
鶴 七右衛門	物 80石		48歳	鷹師	[弥]
泰藏		○劍免状	25歳		
鶴 玄之允	切 60石		33歳	大井樋	[水→志]
鶴 三次	物 30石		37歳	古賀	[志]
鶴 傳四郎	米 9石		72歳	高木町	[又]
鶴 春菴		一代医師	40歳		
鶴田 弥作	切 40石	○劍免状	29歳	大野原	[志]
鶴田 清八	米 9石	○(種目・程度記無)	28歳	諸富津	[志]
土山 左内	物 80石	○劍皆伝	41歳	枳馬場	[六]
土山 大八	米 14石4斗	○劍目録	47歳	六反田	[又]
八助		○文、剣	19歳		
津田 三郎左衛門	切 68石	○槍印可	40歳	会所小路	[神→大]
津田 源十	米 34石2斗		22歳	鬼丸	[馬]
津田 春耕	切 105石		39歳	鬼丸	[周]
塚原 左平太	切 25石	○文学独看、剣目録	37歳	袋村	[水]

て
手貝 進之允 切 25石 ○文学出精、剣目録 31歳 今泉 [市]

と
徳久 半之允 切 20石 ○劍免状、文学出精 33歳 西御堀端 [左→臯]
徳久 弥太夫 切 41石(内加5石) 46歳 鬼丸 [隼]
堅太郎 (改名) →九郎次 14歳
徳久 甚作 切 40石 17歳 椎小路 [計→千]
徳永 傳之助 切 55石(内加5石) 48歳 枳小路 [播]
萬次郎 21歳
徳島 九兵衛 切 30石 37歳 水ヶ江 [伊→大]
徳島 治部之允 切 20石 ○火術二段 42歳 大野原 [志→千]
極馬 ○剣 18歳
土肥 平之允 物 50石 21歳 小川村 [馬]
土肥 信太郎 物 35石2斗5 11歳 田代 [弥→又]
土肥 乙五郎 米 18石 39歳 春日村 [左→臯]
豊三郎 17歳

戸田	<u>孫兵衛</u>	切	40石		60歳	西精	[縫]
	基一郎				14歳		
鳥巣	新十	物	15石		20歳	新宮田	[六]
富岡	助之進	切	60石		59歳	片田江	[計→千]
	弥一左衛門			○円極流砲術免状	27歳		
富岡	十蔵	米	18石	○槍目録、体術目録	35歳	寺小路	[隼]
富石	忠七	切	20石	○槍免状	44歳	鬼丸	[周]
富永	孫八	米	9石	○火術二段	40歳	安住	[志]
富永	文英	米	36石		28歳	與賀馬場	[迦]
問田	頼一郎	米	9石		20歳	神埼	[又]

な

鍋島	加賀守殿	物成	2万9301石	知行	7万3252石5斗	◇支藩	小城
鍋島	甲斐守殿	物成	2万1050石	知行	5万2625石	◇支藩	蓮池
鍋島	熊次郎殿	物成	8000石	知行	2万石	◇支藩	鹿島
鍋島	<u>山城殿</u>	物成	8110石6斗	知行	2万0276石5斗	◇親類	白石
	河内殿						
鍋島	彈馬殿	物成	4000石	知行	1万石	◇親類	川久保
	織三郎殿						
鍋島	若狭殿	物成	4308石	知行	1万0770石	◇親類	久保田
鍋島	安藝殿	物成	1400石	知行	6000石	◇親類	鳥栖村田
	<u>内記殿</u>						
鍋島	上総殿	物成	8640石	知行	2万1600石	◇親類同格	武雄
鍋島	安房殿	物成	3300石	知行	1万1000石	◇親類同格	須古
	伊豆殿						

*安房は請役当役（執政）、藩主直正庶兄

鍋島	主水殿	物成	3000石	知行	1万0000石	◇家老	横岳氏、連判、大組頭
鍋島	左馬助殿	物成	2400石	知行	6000石	◇家老	深堀氏、連判、大組頭
鍋島	弥平左衛門殿	物成	2505石	知行	6262石5斗	◇家老	神代氏、連判、大組頭
鍋島	志摩殿	物成	1900石	知行	4750石	◇家老	太田氏、加判、大組頭
	式部殿						
鍋島	播磨殿	物成	1700石	知行	4250石	◇家老	倉町氏、加判、大組頭
	孝五郎殿						
鍋島	周防殿	物成	2020石5斗	知行	5051石2斗5	◇家老	姉川氏、加判、大組頭
	縫殿助						
鍋島	千之丞	物	900石			25歳	中ノ小路 ◇着座[弥]→大組頭
鍋島	市佑	物	600石			55歳	北御堀端 ◇着座 大組頭
	啓三郎					已15歳	

*市佑は号夏雲 『夏雲日記』

鍋島	<u>左太夫</u>	物	600石	○槍免状	56歳	中ノ小路	◇着座 大組頭
	臯之助				26歳		
鍋島	隼人	物	370石		61歳	西御門内	◇着座 大組頭
	達之助				31歳		

鍋島	新介	物 150石	◎文学独看、槍免状	38歳	十間端	[左→臯]
鍋島	宮門	物 150石(内加65石)		46歳	中ノ小路	[弥]
	久太郎			22歳		
鍋島	<u>新左衛門</u>	物 69石(内加5石)		60歳	中ノ橋小路	[伊→塙]
	又六			30歳		
鍋島	五介	物 40石		36歳	木塚	[計→千]
成富	<u>一之助</u>	物 600石		28歳	北御堀端	大組頭
(跡)	△学己				◇着座	
成富	作兵衛	物 70石5斗		60歳	鷹師	[志]
	兵次郎			26歳		
成富	十郎助	物 40石	○槍免状	31歳	古賀	[周]
成富	橋之允	物 40石		45歳	新郷村	[神→志]
	辰次郎			13歳		
成富	八左衛門	物 35石		27歳	灰塚村	[志]
成富	権作	物 35石		48歳	田代	[志]
	助太郎			21歳		
成富	林左衛門	切 25石(内加5石)		60歳	本庄	[水]
	半助		○剣目録	33歳		
成富	寛左衛門	物 15石	○円極流三段	44歳	大野原	[志→臯]
	大兵衛			19歳		
成富	久兵衛	米 14石4斗	○火術二段	41歳	水ヶ江	[志]
成松	新兵衛	物 220石(内加20石)	○槍免状	42歳	古賀	[左→志]
	弥平			17歳	◇着座	
中島	弥次兵衛	物 180石	○剣印可	39歳	水ヶ江	[水]
	弥十郎			13歳		
中島	新八郎	物 100石		20歳	鷹師	[隼]
中島	源左衛門	物 59石	○火術免状	50歳	八幡	[志]
	忠吉郎			17歳		
中島	弥太夫	切 55石	○槍免状	45歳	水ヶ江	[周]
	文太夫			19歳		
中島	<u>権之助</u>	切 50石	○槍免状	41歳	水ヶ江	[弥→千]
	朔一			11歳		
中島	辰之助	米 27石	○文学出精、槍目録	37歳	妙安寺小路	[志]
中島	和三郎	切 25石(内加5石)	○文学独看	27歳	南御堀端	[市]
中島	六郎太夫	切 25石(内加5石)	○剣目録	41歳	花房	[馬]
	榮太郎			14歳		
中島	文作	切 20石		48歳	安住	[播]
中島	儀一兵衛	切 20石		78歳	田代	[周]
	長次郎			13歳		
中島	源一郎	切 20石	○剣免状	39歳	水ヶ江	[志]
中島	甚九郎	米 9石	○火術二段	44歳	小城平野村	[志]
中島	善九郎	米 9石	一代 ○火術免状	36歳	会所	[志]
中島	又六	米 18石	侍格	30歳	神埼	[伊→塙]

中隈 大四郎	切 20石	◎文学独看、剣免状	33歳	浄土寺門前	[六]
中溝 源左衛門	切 60石		52歳	大財村	[水]
大之助		○槍免状	30歳		
中溝 龜次郎	切 25石		20歳	通	[馬]
中溝 助九	切 20石	○槍目録	31歳	西河治	[志]
(改名) → 平左衛門					
中溝 東左衛門	米 9石 一代		65歳	今宿裏小路	[馬]
中橋 賴藏	切 35石(内加5石) ○剣皆伝		46歳	八幡	[弥→縫]
熊松	→切30石		午13歳		
中橋 弾之允	切 25石	◎文学独看、剣免状	39歳	鬼丸	[縫]
中橋 惣左衛門	切 20石		62歳	広江	[志]
勘兵衛		○火術二段、體術目録	38歳		
中川 貫之允	物 37石5斗	◎文学独看、槍免状	37歳	片田江	[周→臯]
中林 伴之允	切 30石	○文学独看	26歳	江湖端	[縫]
中林 新三郎	切 20石	○槍目録	41歳	七浦	[又]
助作			巳14歳		
中山 熊蔵	物 50石		17歳	枳馬場	[神→大]
(改名) → 嘉源太					
中山 平四郎	切 20石	○文学独看	34歳	鷹師	[又→市]
中山 二兵衛	切 20石		61歳	鷹師	[隼]
傳太郎		○文学出精、剣免状	31歳		
中西 新七	切 35石		52歳	多布施	[伊→塙]
仁助			19歳		
中西 七三	米 9石	○槍免状、剣目録	38歳	中折村	[六]
中村 彦之允	切 150石(内加120石)		79歳	鬼丸	[播]
大助		○文学独看	46歳		
中村 甚四郎	切 45石		46歳	鬼丸	[水]
鶴之助			18歳		
中村 勘之允	切 35石	○槍免状	46歳	馬責馬場	[計→千]
又太郎			16歳		
中村 権作	切 20石		20歳	牛島大神脇	[左→臯]
中村 九左衛門	米 10石8斗		75歳	長瀬村	[志]
新左衛門		○火術二段	44歳		
中地 平左衛門	切 20石		49歳	本庄	[志]
藤太			20歳		

『石高帳』には、中村奇輔あり

《中村 奇輔 15人扶持・米27石 高岸村 [志]》

*中村奇輔は安政2年6月長崎海軍伝習派遣。京都の人。京都の西洋物理学者の広瀬元恭門下、薬学に造詣が深く、佐野に招かれて来佐、理化学の研究実験にあたる。

中野 神右衛門	物 255石		58歳	中ノ小路	[弥]
兵右衛門		○文学独看	39歳	◇着座	
中野 壱之助	物 200石		61歳	今泉	[播→又]
宗四郎			32歳	◇着座	
中野 又兵衛	物 125石		55歳	十間端	[神→大]

	嘉右衛門				31歳		
中野	吉之允	物 100石	○剣免状		43歳	田代	[神→大]
	徳太郎				17歳		
中野	忠太夫	物 75石			44歳	八幡	[又→水]
	剛吉郎				13歳		
中野	平之允	物 60石(内加10石)			64歳	正丹	[志→馬]
	助太郎				29歳		
中野	真七郎	切 50石	○文学		22歳	野田村	[志]
中野	甚吾	米 36石			37歳	野田村	[神→大]
中野	侍治	切 30石			20歳	安住	[志]
中野	勘六	切 20石			21歳	相応津	[志]
中野	久之允	切 20石	○剣免状		36歳	正丹	[志]
中野	文蔵	切 20石			60歳	大野原	[志]
	家太郎		○(種目・程度記無)		25歳		
中野	奎之允	米 18石	○文学独看		39歳	尼寺村	[神→大]
	源四郎				巳14歳		
中野	宗三	切 100石			35歳	白山	[迦]
	大太郎				午7歳		
中野	元立	米 36石			57歳	六座町	[伊→奎]
	雲圭				24歳		
中牟田	金吾	米 9石	○蘭学四段		21歳	古賀村	[志]
(改名) →倉之助							

*天保8(1837)生まれ、父は金丸文雅、中牟田武貞の養子となる。安政2年7月長崎海軍伝習所に学び、藩三重津海軍所に勤務、後日本海軍の創設に尽くす。明治11年海軍中将、横須賀、呉鎮守府長官

長沼	源作	米 18石	○火術二段		29歳	大井樋	[志]
長森	喜右衛門	切 50石	○槍印可		46歳	鬼丸	[隼]
	傳次郎		○文学独看		23歳		
長尾	恕吉	物 70石	○文学独看、槍免状		32歳	片田江	[神→大]
名尾	利三右衛門	切 25石			66歳	田代	[神→大]
	定馬		○文学出精、剣免状		29歳		
永田	諸領	切 45石(内加10石)			68歳	花房	[志]
	太右衛門				41歳		
	源之進				20歳		
永田	十郎助	切 20石	○文学独看		27歳	浄土寺小路	[周]
永渕	傳治	物 45石	○槍免状		47歳	椎	[伊→大]
	主一				21歳		
永渕	嘉兵衛	切 50石	○円極流免状		52歳	片田江	[志]
永渕	龍一郎	切 30石			15歳	木塚	[神→大]
永渕	<u>儀兵衛</u>	切 30石(内加10石)			53歳	鷹師	[播→隼]
	宗一郎		○文学、剣		24歳		
永松	<u>善右衛門</u>	切 20石			65歳	船津	[計→千]
	儀八		○円極流三段		32歳		
永松	玄洋	米 9石	一代医師		36歳	夕日町	[水]
永山	藤次郎	物 91石2斗5			20歳	中ノ小路	[市]
櫛林	榮馬	切 40石			16歳	長崎	[馬]

〈後見〉蒼壽				35歳		
樺村 精八	米 9石	◎火術二段、剣目録		24歳	妙安寺小路	[志]
南里 十藏	切 25石(内加5石)			78歳	松原	[市]
傳作				45歳		
*傳作は号有隣、漢学者、和学者、和歌に優れ、郷土史研究でも業績						
南里 太郎三	切 20石	○(種目・程度記無)		38歳	鍋島村	[志]
南里 弥平次	切 20石	◎剣印可		43歳	正丹小路	[左→臯]
南里 與兵衛	米 9石 一代			61歳	八戸	[市]
南部 大七	米 59石4斗			66歳	鬼丸	[又]
虎之助 (改名) →俊藏				20歳		
南部 徳太郎	切 50石	○文学独看		28歳	新地	[周]
南部 宗壽	米 9石			64歳	相応村	[迦]
宗益				34歳		
夏秋 儀平太	切 20石	○槍目録		43歳	川原小路	[志]
兵一郎				18歳		
直塚 八郎右衛門	切 30石	○文学独看、剣印可		44歳	椎小路	[市]
五太夫		○槍		25歳		
直塚 良助	切 35石(内加5石)			44歳	鬼丸	[又]
乙三郎				17歳		
直塚 源兵衛	米 9石			52歳	船津	[伊→李]
豊四郎				18歳		

に

西 五太夫	切 50石	○槍免状	28歳	会所小路	[播]
西 卵右衛門	切 30石		21歳	六反田村	[水]
西牟田 孫左衛門	物 26石9斗		64歳	正丹	[志→大]
秀吉郎		○文学出精、剣目録	41歳		
西牟田 孫助	切 20石		50歳	正丹	[馬]
三四郎			24歳		
西牟田 玄才	米 36石		43歳	正丹	[市]
西村 新蔵	切 35石	○槍免状	32歳	本庄	[神→志]
西村 辰之允	切 20石		42歳	龍泰寺小路	[左→臯]
西村 八一郎	切 15石		23歳	独行小路	[周]
西村 貫六	米 9石	○文学出精	33歳	三重村	[又]
西岡 春益	切 145石(内加5石)		42歳	枳	[六]
周硯			24歳		
西山 太兵衛	切 35石		71歳	大野原	[志→千]
幸七			39歳		
丹羽 久左衛門	物 200石(内加120石)		70歳	水ヶ江	[播]
卯右衛門			22歳		
丹羽 忠右衛門	物 65石		45歳	十間端	[六]
内蔵進			18歳		
丹羽 七太夫	物 40石		63歳	鬼丸	[六]
五郎助		○文学独看、剣免状	33歳		

丹羽 輿左衛門 慶吉郎	切 20石	○円極流三段	44歳 13歳	鬼丸	[馬]
の					
納富 六郎左衛門 精一	物 85石(内加5石)		49歳 19歳	寺小路	[弥]
納富 栄左衛門 六郎助	物 15石		56歳 24歳	綾部村	[六]
納富 春硯	米 12石6斗	一代医師	32歳	通	[迦→大]
納富 和七郎	米 9石		61歳	下野村	[伊→塙]
平作			45歳		
納富 又次郎 鷹一郎	物 200石(内加50石)		46歳 13歳	片田江	[志]
野副 兵衛(隠居) 兵之進(改名) → 源次左衛門	切 20石	○剣目録	72歳 26歳	嘉瀬町	[六]
野副 作左衛門 (改名) → 清吾	米 9石		51歳	大野原	[志]
野崎 五郎左衛門 次郎助	物 100石		20歳		
野田 清右衛門 惠之助	切 37石(内役7石)	○槍	25歳 22歳	中町 田代	[志→馬] [播→馬]
野田 清五左衛門 忠七	米 9石		63歳 35歳		[志→又]
野田 勘兵衛	物 100石	○文学独看、剣免状	41歳	武藤村	[水]
野田 善太夫 浅一郎	切 45石		42歳 18歳	石長寺小路	[縫]
野田 文次郎 郡之允	切 35石 30石	○文学独看	36歳 64歳	武藤村 正丹	[左→弥] [左→志]
野田 佐五右衛門 善右衛門	物 50石	○文学	26歳		
野田 祭四郎		○文学独看、槍免状	50歳	鬼丸	[馬]
野田 市之進	切 20石	○文学独看	29歳		
野田 又七 弥太郎	切 30石(内役10石)		32歳 50歳	大野原 妙安寺小路	[志→水] [隼→千]
野田 平左衛門 善次 弘平	物 40石		20歳 66歳 47歳 16歳		
野田 文一郎	物 20石	○剣目録	24歳	西精	[馬]
野田 七右衛門	米 9石	○火術二段	37歳	鷹師	[志]
野口 廣一郎	切 20石	○文学独看、剣免状	42歳	田代	[左→臯]
野口 圓四郎	切 20石	○文学出精、剣目録	30歳	精町	[周]
野口 愛右衛門	米 9石	○槍免状、柔術免状	44歳	正丹	[神→大]
野口 文郁 宗謙	切 20石		49歳 19歳	八幡	[市]
野口 寛哉	切 20石		14歳	八幡	[迦]

野口 武左衛門	切 25石	○文学出精、槍目録	24歳	八戸宿	[志→大]
野口 新右衛門	物 130石		50歳	椎	[計→千]
省吾			22歳		
野口 文之助	切 40石	○文学独看、剣免状	34歳	鬼丸	[縫]
野口 文禮	米 18石		43歳	白石高町	[勘]
野邊田 剛四郎	米 9石	○槍免状	39歳	六反田	[隼]
野中 新九郎	切 20石	○剣免状、火術二段	32歳	片田江	[志]
野中 龍作	切 20石	○槍目録	29歳	三溝村	[志]

は

原 次郎兵衛	物 150石		57歳	花房小路	[隼]
平六 (改名)	→次郎兵衛		32歳		
原 庫次郎	切 55石		12歳	馬責馬場	[神→千]
(改名) →大の助					
原 伊兵衛	切 40石	○槍免状、剣免状	52歳	西精	[六]
伊聲士			18歳		
原 辰一郎	切 35石		14歳	高尾村	[周]
原 五郎左衛門	切 35石		49歳	本庄町小路	[伊]
清太郎			18歳		
原 幸左衛門	切 30石		54歳	椎	[計→志]
治平			已32歳		
原 閑太	切 20石	○文学出精	36歳	田代	[馬]
原 元一郎	切 20石	○蘭学四段	20歳	蓮池町	[志]
原 源吾	切 20石		24歳	八田本村	[周]
原 文八郎	切 20石		26歳	早津江	[周→志]
原 恵七	切 20石		55歳	材木町	[周]
新兵衛		○文学出精、剣目録	28歳		
原 三太夫	切 20石	○火術免状	54歳	鬼丸	[志]
喜惣太		○火術二段、剣目録	28歳		
原田 大右衛門	物 250石	○槍免状	38歳	西御堀端	[水]
清一郎			16歳	◇着座	
原田 伊兵衛	物 120石		57歳	西精	[弥]
彦左衛門			29歳		
原田 小四郎	切 40石(内加5、役10)	○文学独看、剣奥義	45歳	椎	[弥]
敬太郎			18歳		

*小四郎は文化4年生まれ、号葭涯、弘道館教官、直正御側役。敬太郎ものち弘道館教官となる

原田 左平次	切 25石	○文学独看、剣免状	39歳	精町	[市]
原田 逸菴	切 40石		63歳	八戸	[又]
玄龍			46歳		
原野 勘助	切 20石	○槍免状	29歳	右原村	[周]
原口 愛次郎	切 55石		14歳	片田江	[伊→李]
原口 形左衛門	物 50石		70歳	浄土寺小路	[志]
平次兵衛			36歳		

助							
原口	近左衛門 (改名) → 重藏	切 40石	◎文学独看、槍	17歳 30歳	十間端	[周]	
原口	太兵衛 大三	切 30石		59歳 21歳	鷹師	[隼]	
原口	平八	切 30石		26歳	巨勢	[弥]	
橋野	新助	米 34石2斗	◎文学独看	39歳	田代	[周]	
橋本	源之助	切 20石	◎文学、火術	19歳	正丹小路	[周]	
腹巻	萬平	切 20石		26歳	江見津	[左→志]	
服部	平左衛門 要一郎	切 9石		65歳	鹿子村	[又]	
濱野	源六	物 85石	◎文学独看、剣免状	42歳 31歳	松原 龍泰寺小路	[市]	
萩原	弥左衛門	切 25石	◎槍目録	49歳	正丹 → 辻ノ堂	[馬]	
萩原	藤左衛門 三藏	切 20石	◎剣免状	46歳 16歳	中古賀村	[又]	
八谷	貫蔵	切 25石	◎文学出精、槍目録	38歳	御蔵番	[六]	
八谷	又八	物 25石	◎剣目録、火術二段	28歳	水ヶ江	[志→縫]	
林	権蔵 恵太郎	切 20石	◎剣免状	56歳 28歳	御船蔵番	[計→千]	
林	形左衛門 六之助	米 9石	○火術二段	63歳 30歳	東新庄	[志]	
林	梅馥	切 60石		56歳	片田江	[市]	
花房	三柳 元淑	切 99石		55歳 22歳	川原小路	[又]	
花房	元春	切 12石6斗 一代		67歳		[市]	
	春菴	米 9石		(記欠)		[伊]	
晴氣	作一郎	物 45石		26歳	天神馬場	[周]	
羽室	雷助 要一郎	物 165石(内加10石)	○剣免状	38歳 17歳	枳小路	[播]	
灰塚	泰九郎	切 25石	○火術二段	32歳	川原	[志→縫]	
馬場	勘六	物 100石	○槍免状	28歳	松原	[神→千]	
馬場	三藏	切 90石		31歳	通	[計→播]	
馬場	卯吉郎	切 20石		19歳	大野原	[志→周]	
馬場	忠太夫	米 9石		39歳	閑屋村	[伊→空]	
秀島	善太夫	切 45石	○槍免状	24歳	龍泰寺小路	[神→大]	
秀島	清治	物 160石	○剣免状、文学独看	31歳	鬼丸	[播→大]	
秀島	卯右衛門 轉	切 30石		55歳	通	[播]	
秀島	儀左衛門 虎之助	物 55石		24歳 52歳	石長寺小路	[六]	
秀島	廣司	切 49石	○文学独看、剣免状	午15歳	鬼丸	[播]	
秀島	源兵衛	切 20石		40歳 45歳	唐人町	[左→臯]	

秀島	傳之允	切	25石		28歳	石長寺小路	[志]
秀島	新左衛門	切	20石		61歳	多布施町	[馬→志]
	力四郎			○体術目録	21歳		
秀島	嘉右衛門	切	25石		66歳	鷹師	[神→大]
	熊之允			○(種目・程度記無)	27歳		
秀島	大七	切	20石		49歳	大嶋村	[志]
	官平			○剣目録、火術二段	22歳		
秀島	善次郎	物	120石		31歳	辻ノ堂	[志]
秀島	権太夫	切	20石		48歳	愛敬島	[志]
	藤之助			○蘭学四段	22歳		

*藤之助は火術方と医学校の蘭学寮で蘭学を学ぶ。安政2年に長崎海軍伝習に派遣される。文久2(1862)年からは英学も学ぶ。秀才だったが、元治元(1864)年、蒸気船甲子丸購入見分の際、同僚の田中儀右衛門(2代目)を殺害。

久納	吉右衛門	物	100石		51歳	八幡	[播]
	権之助			○槍、剣	24歳		
久富	三太夫	切	25石	○剣免状	37歳	神野村	[市]
東島	淺右衛門	切	20石	○剣目録	24歳	川原小路	[周]
東島	忠兵衛	切	25石		62歳	與賀馬場・奥屋敷	[六→市]
	又四郎			○剣免状	34歳		
東島	末次郎	切	25石	○文学独看、火術二段	35歳	武藤村	[志]
平尾	吉左エ門				52歳	古賀村	[志]
	伴之進				21歳		
平田	助太夫	物	41石		44歳	会所小路	[縫→六]
	朝一郎				17歳		
平田	藤左衛門	切	35石		45歳	迎町	[計→志]
平野	藤七兵衛	切	20石		38歳	向島	[縫→志]
	虎太郎			○剣	21歳		
平原	権左衛門	物	50石	○文学独看	39歳	尾崎村	[縫]
平原	秋之助	切	15石		32歳	樋口ヶ里村	[六→志]
平本	兵之進	米	27石		52歳	古賀村	[志]
	熊之助				15歳		
平方	治三太	切	20石	○火術二段、槍目録	30歳	寺井	[志]
平川	桃庵	切	60石		55歳	水ヶ江	[馬]
	孝哉				18歳		
廣田	長左衛門	物	45石		61歳	本行寺村	[馬]
	神吉			○剣	24歳		
廣木	作太夫	物	100石	○槍免状	36歳	水ヶ江	[六→水]
廣木	善助	米	9石	○槍	29歳	有重村	[左→臯]
廣渡	九郎太夫	切	30石		52歳	南御堀端	[縫]
	達之進				21歳		
廣渡	十兵衛	物	35石		62歳	会所小路	[計→千]
	麟之助				21歳		
百武	次郎左衛門	物	82石	○剣免状	58歳	片田江	[播→六]
	作右衛門				36歳		
	安太郎				15歳		

百武	善右衛門	物	90石		63歳	中ノ小路	[市]
百武	猪之助	切	15石	○火術二段	27歳	礫石村	[志]
百武	宗一郎	切	20石		52歳	安宅村	[縫]
	仁助			○文学独看	30歳		
百武	豊吉	米	28石8斗		12歳	高尾	[又]
百武	徳左衛門	切	20石		44歳	高尾宿	[左→臯]
兵動	忠太夫	切	25石	○槍免状、剣免状、火術二段	35歳	正丹	[志]

ふ

深江	六左衛門	物	300石		50歳	片田江	[大組頭]
	助四郎			○文学	28歳	◇着座、原田氏	陣場奉行
深江	助右衛門	物	60石	○剣印可	45歳	花房	[弥]
深江	吉十郎	物	120石		49歳	八幡	[神→大]
	秀太郎				19歳		
深江	俊助	米	18石	○文学独看、剣免状	30歳	浄土寺小路	[周]
(改名) → 平兵衛							
深川	勘助	物	130石		30歳	中ノ小路	[神→大]
深川	桃太郎	切	25石		21歳	片田江	[馬]
深川	一左衛門	米	10石8斗	○剣目録、火術二段	22歳	大野原	[志]
深川	藤藏	切	20石		68歳	神崎御茶屋敷	[六]
	門作			○文学独看、剣目録	26歳		
深堀	八左衛門	物	125石		43歳	川原小路	[馬]
	弁次郎				19歳		
深堀	官兵衛	物	230石		62歳	片田江	[馬]
	又太郎			○文学独看、槍免状	33歳	◇足軽組頭	
深堀	次兵衛	切	20石		47歳	蛎久村	[志]
	啓六			○槍目録	21歳		
深堀	作右衛門	米	9石	○剣目録	39歳	木塚	[伊→李]
深町	左兵衛	切	25石	○剣皆伝、槍免状	44歳	木原	[左→臯]
福田	兵太夫	切	35石(内加5石)		56歳	南御堀端	[志]
	幸次郎				22歳		
福田	悦太郎	切	25石		21歳	鷹師	[主→水]
福田	大助	米	9石	一代	58歳	田代	[主→水]
福富	頼助	米	18石	○火術二段	41歳	早津江	[志]
福地	辰助	切	40石		49歳	本庄	[左→臯]
	林平				21歳		
福地	助之允	物	100石		51歳	中ノ小路	[計→千]
	二左衛門			○(種目・程度記無)	27歳		
福地	壽兵衛	切	35石4斗		51歳	水ヶ江	[播]
	彦太郎			○文学独看、剣免状	24歳		
福地	吉左衛門	物	39石		49歳	水ヶ江	[縫]
福地	安吉郎	米	41石4斗		15歳	椎小路	[馬]
福地	卯一郎	米	18石		15歳	反田村	[神→大]
(改名) → 利左衛門							
福地	文安	米	46石8斗		20歳	八幡	[迦]

福井	甚兵衛	物	33石5斗		58歳	袋焰硝藏	[馬]
	壽一郎			○(種目・程度記無)	26歳		
福島	袈裟太郎	切	25石		11歳	水ヶ江	[隼]
福島	佐一郎	物	32石5斗		49歳	大野原	[志→縫]
福島	文蔵	切	20石		56歳	本行寺小路	[主→又]
	禮助				15歳		
福岡	助太郎	切	39石(内役5石)	○文学独看	41歳	正丹	[弥→馬]
藤瀬	孫太郎	切	50石		38歳	会所小路	[神→周]
藤瀬	藤左衛門	切	20石		44歳	隱村	[周]
	元太郎				14歳		
藤瀬	佐十	米	23石4斗	○火術二段	38歳	鬼丸	[志]
藤山	虎三郎	物	130石		11歳	鬼丸	[又]
藤山	内蔵允	切	50石(内加5石)		72歳	御馬屋	[播]
	寛太			○劍免状	34歳		
藤山	治兵衛	物	27石		47歳	木塚	[縫]
藤山	兵藏	切	20石		53歳	鳥屋宿	[縫→志]
	八郎				19歳		
藤戸	東右衛門	米	9石		38歳	鹿島村	[又→志]
藤本	桓作	物	100石	○槍免状、劍免状	36歳	水ヶ江	[隼]
藤本	善次郎	切	40石		58歳	古賀	[計→千]
	千八			○槍免状	30歳		
藤井	源助	米	32石4斗	○槍免状	38歳	正丹	[周]
藤井	久太夫	物	15石	○円極流三段	37歳	大野原	[志→又]
藤井	兵之允	米	9石	○円極流三段	32歳	大野原	[志→六]
古川	喜平次	物	90石		20歳	中ノ橋小路	[主]
古川	久七	切	25石		23歳	今泉	[市]
古川	倉之助	切	20石		46歳	岸川町	[縫]
	十次郎				14歳		
古川	平内	切	20石		47歳	川久保	[計→千]
	助九郎				26歳		
古川	一介	切	50石(内加10石、役15石)		58歳	鷹師	[弥]
	新介	→切25石		○文学独看、槍免状	29歳		
古川	與一	米	18石		44歳	八幡	[市→播]
	源太郎				16歳		
*與一(号松根)は幼時から藩主直正の左右に侍し直正側頭。和歌・書画に秀逸							
古川	弥平太	切	22石5斗	○円極流免状、槍目録	36歳	枳馬場	[主→水]
古川	二太左衛門	米	9石	○槍目録、劍免状、火術二段	42歳	鬼丸	[志]
藤崎	源右衛門	物	55石	○槍免状	33歳	片田江	[市]
	嘉源次				14歳		
藤崎	五左衛門	切	45石		66歳	鷹師	[神→大]
	孫之進			○槍免状	41歳		

ほ

星野	惣右衛門	物	110石(内加10石)	○槍免状	42歳	中ノ小路	[神→市]
----	------	---	-------------	------	-----	------	-------

堀田 権左衛門	切 45石		50歳	会所小路	[伊→千]
源左衛門		◎文学独看、剣免状	29歳		

ま

前山 秀次郎	物 60石		21歳	古賀村	[志]
前山 官助	切 20石		57歳	鬼丸	[馬]
十内		◎槍目録、柔術目録	21歳		
前山 清一郎	切 25石	◎文学独看、槍目録	31歳	古賀	[六]

*文政6(1823)生まれ、五兵衛長信の長男、弘道館教授補の傍ら家塾を開く。戊辰戦争参謀、佐賀藩参事。
佐賀の役では中立党を組織し平定に努めた。役平定後は上京し官に勤めたが、辞して千葉県で帰農。

前山 彦左衛門	切 15石		59歳	白石	[又]
十作		◎文学出精、槍目録	28歳		
松井 太郎五郎	物 100石	◎文学独看、槍免状	29歳	南御堀	[左→臯]
松崎 寛之允	物 180石	◎(種目・程度記無)	29歳	増田村	[弥]
松田 源右衛門	切 30石	○剣免状	34歳	中ノ橋小路	[市]
松田 又兵衛	米 12石6斗	○体術目録	44歳	鹿ノ子焰硝藏	[伊→塙]
松坂 左門	物 30石	◎槍印可、剣印可	46歳	西御堀端	[播→水]
松尾 栄仙	米 63石		42歳	高木町裏	[主→千]
仙益			18歳		
松隈 元南	物 85石(内加5石)		42歳	片田江	[主→水]
安哉			16歳		
松村 庸一郎	物 90石		8歳	川原小路	[志→又]
松村 文耕	物 80石		43歳	牛島町	[周]
松村 嘉平次	米 27石	◎剣免状	25歳	西御堀	[隼]
松永 卵右衛門	切 100石	○槍免状	41歳	通	[左→馬→臯]
松永 宗右衛門	切 50石		48歳	片田江	[縫]
(改名) →平治					
壽一郎			23歳		
松永 五左衛門	切 40石(内加5石、役10石)		65歳	川原小路	[志]
文平		◎文学独看、剣免状、槍免状	44歳		
旗治			21歳		
松永 李左衛門	米 9石		77歳	古瀬	[又]
忠八郎 (改名) →力之允			16歳		
松本 三郎兵衛	切 30石		49歳	鷹師	[市]
仁吉郎			18歳		
馬郡 菅四郎	米 9石 一代		66歳	田代	[伊]
馬郡 幸左衛門	米 9石 一代		67歳	大島村	[伊]
馬島 宗仙	米 23石4斗		18歳	寺小路	[迦]
馬島 元濟	米 12石6斗		33歳	今宿裏村	[迦]
馬渡 七左衛門	物 80石		51歳	田代	[計→千]
豊吉郎			23歳		
馬渡 喜左衛門	切 15石	◎文学出精、火術二段、円極流三段	44歳	大野原	[志]
馬渡 禮太夫	物 42石5斗(内加5石)		55歳	鬼丸	[計→千]
禮助		◎文学独看	26歳		
馬渡 七太夫	物 138石	○火術	35歳	多久屋敷内	[弥]

馬渡	耕雲 元道	米 43石2斗		58歳	蓑原	[六]
馬渡	又兵衛 八郎	物 50石		19歳		
馬渡	三右衛門	切 100石	○槍免状	40歳	泰安小路	[志]
馬渡	清吉郎	切 25石	○文学独看、剣目録	19歳	松原	[縫]
馬渡	千三郎	物 20石	○剣免状、体術免状	28歳	野田村	[神→大]
真崎	作一郎	切 20石	○剣目録、体術	43歳	鬼丸	[志]
真崎	三郎兵衛 権助	切 20石	○(種目・程度記無)	18歳	中町	[主→水]
真木	清之進 鉄太郎	米 18石	○文学出精、蘭学四段	46歳	寺井	[左]
牧 弥学		切 62石4斗(内加20石)		20歳		
牧	又藏	切 42石4斗	○火術	47歳	木原村	[志]
牧 春堂		切 55石		21歳	水ヶ江	[縫→市]
増田	宗右衛門 宗三郎	米 18石	○剣目録	33歳	中ノ橋小路	[隼]
増田	安兵衛 孫作	切 50石		65歳	御番所	[志]
増田	袈裟吉郎	切 20石		27歳		
増田	忠八郎	切 25石	○文学独看、剣目録	56歳	水ヶ江	[志]
				24歳		
				13歳	木塚	[計→千]
				42歳	高木町裏小路	[隼]

*広長と称した。水戸に遊学。武雄邑鍋島茂義から蘭法砲術を学ぶ

増田	七郎右衛門 左馬進	米 12石6斗		49歳	寺町	[志]
益田	文太夫	物 35石	○文学出精、蘭学四段	21歳		
益田	十八	切 25石		20歳	高岸村	[志]
	辰之助		○文学出精、蘭学三段	74歳	紺屋町	[市]
益田	千次郎	切 25石		39歳		
益田	新吾 市五郎	切 20石	○槍目録	11歳	下村	[市]
				57歳	下村	[周]
				32歳		

み

水町	卯右衛門	物 235石		35歳	通	[主→水]
水町	芸菴 三省	物 50石		54歳	八幡	[隼]
水町	一郎太	切 30石		21歳		
水町	恕助	切 25石	○文学出精、槍目録	19歳	水ヶ江	[計→志]
水町	敬蔵	切 20石	○文学出精、剣目録	33歳	古賀	[計→千]
水町	半蔵	切 20石		28歳	本庄通小路	[計→千]
御厨	萬五郎	切 35石		26歳	鍋島村	[六]
御厨	忠左衛門 大之進	切 25石	○槍目録	26歳	三溝村	[左→臯]
御厨	六郎右衛門	切 15石	○剣免状	52歳	白石	[志]
宮地	平太夫	切 40石	○火術免状	22歳		
				38歳	木原村	[六]
				44歳	水ヶ江	[志]

宮地	小右衛門	切 25石		47歳	下川	[主→水]
宮田	魯齋	切 60石		36歳	蓮池町	[志]
宮田	新五郎	切 40石		60歳	枳馬場	[志]
	巳之助			26歳		
宮崎	奎兵衛	物 162石7斗5	○槍免状	48歳	松原	[六]
	豊三郎			26歳		
宮崎	徳一郎	物 61石8斗78	侍並	48歳	小城	[左→臯]
	義一郎			19歳		
宮富	一右衛門	切 30石		73歳	鬼丸	[周]
	淺之允		○文学独看、槍目録	37歳		
宮富	源蔵	切 20石		60歳	迎町	[主→水]
	右一郎		○文学出精、剣皆伝、槍目録	31歳		
宮島	壽平	切 20石	○文学独看	42歳	田代	[主→水]
宮原	太右衛門	切 25石	○槍免状、剣目録	37歳	隱村	[左→臯]
宮部	善之進	米 23石4斗	○文学独看、火術免状	33歳	通	[志]
宮部	良太夫	米 9石	○文学独看、剣免状	33歳	田代	[左→臯]
宮永	次郎右衛門	切 25石		49歳	田代	[志]
	源助			30歳		
宮永	二左衛門	切 20石	○文学出精、火術二段	46歳	大野原	[志→大]
	雄平		○火術二段、剣目録	29歳		
三ヶ島	瑳吉郎 (改名) → 又右衛門	切 25石	○文学出精、槍目録	22歳	水ヶ江	[市]
三谷	千左衛門	物 25石	○文学出精、槍目録	32歳	松原	[神→大]
三谷	忠太	米 18石		11歳	鬼丸	[伊→奎]
三浦	丹右衛門	切 25石		49歳	水ヶ江	[主→水]
	官一郎			19歳		
三浦	宗八	切 25石		66歳	八丁馬場	[伊→奎]
	清兵衛		○剣免状	36歳		
三浦	平四郎	切 15石		56歳	飯町	[六]
	忠助			28歳		
三浦	兵太夫	米 9石		30歳	鬼丸	[伊→奎]
三浦	勘作	米 9石		40歳	田中村	[六]
三好	助次郎	切 45石	(印欠)文学	20歳	十間端	[主]
三上	新九郎	物 150石	○文学独看	41歳	中ノ小路	[縫]
	巳一郎			14歳		
三田	道筑	米 18石		41歳	通	[志]
満岡	権太夫	物 55石(内加5石)	○文学独看、槍免状	35歳	馬賣馬場	[市]
満岡	一兵衛	物 19石	○文学独看	42歳	通	[六]
	秀太郎			16歳		
満岡	長右衛門	米 9石 一代		49歳	田代	[伊→奎]
光村	大之助	米 27石	○文学独看、槍目録	28歳	西御堀	[縫]
光安	三右衛門	切 25石(内加5石)		88歳	高尾	[志]
	彦四郎			52歳		
	半作		○槍目録	32歳		
光増	治兵衛	切 20石		60歳	木塚	[縫]

保之允

◎文学出精、剣目録

23歳

む

牟田口 節左衛門 切 40石
幸太郎50歳 石長寺小路 [馬]
已13歳

*牟田口通清（藤右衛門）家。通清は弘道館教諭、御側頭、手明鎧頭、御年寄役などを勤めたが、安政2年、78歳で没。

牟田口 兵之允 切 40石(内加5石)

62歳 元御鷹屋 [播→勘]

代之助

◎文学独看、剣免状

39歳

牟田口 利左衛門 米 32石4斗
徳太郎44歳 今宿裏小路 [伊→空]
14歳

*徳太郎は牟田口元学、戊辰戦争後官職のあと、政界、実業界で活躍、貴族院議員となる。大正9（1920）年没。

牟田口 伴五郎 切 30石

35歳 川副今村 [志]

牟田 久左衛門 物 60石 ◎文学独看、槍免状

39歳 田代 [弥→周]

牟田 十允 切 45石 (印欠) 文学独看、剣免状

38歳 八幡 [播]

(改名) →二右衛門

藤太

16歳

牟田 瑞助 切 40石 ○剣免状

37歳 鬼丸 [弥]

牟田 大八郎 切 35石(内加5石)

72歳 通 [水]

太郎右衛門

43歳

牟田 次郎兵衛 切 30石 ○體術免状

36歳 大野原 [志→縫]

牟田 文之助 切 20石 ○劍印可

26歳 高岸 [水]

牟田 作之允 米 12石6斗

55歳 平山村 [伊→空]

大一郎

17歳

牟田 嘉左衛門 米 9石

36歳 金立村 [六]

村地 七郎左衛門 切 40石 ○槍免状

42歳 多布施 [隼]

村山 廐右衛門 物 85石(内加5石)

61歳 花房 [縫→河フレ]

七太郎

午13歳

村山 萬太郎 米 36石

18歳 馬賁馬場 [周→志]

村山 綱一郎 切 25石 ○剣目録、文学出精

24歳 鷹師 [隼]

村山 丈之允 切 20石 ○剣目録、火術

31歳 大野原 [志]

村山 重右衛門 切 20石

71歳 古賀村 [伊→空]

権之進 ○剣目録

26歳

村山 又兵衛 米 9石 ○火術免状、剣目録

35歳 八幡 [志]

村松 助右衛門 切 50石

49歳 古賀 [志]

市五郎

午13歳

村岡 五兵衛 物 55石 ○(種目・程度記無)

34歳 田代 [弥]

村岡 五郎三郎 米 9石 ○文学出精、剣目録

30歳 鬼丸 [伊→志]

村岡 清右衛門 米 9石 ○火術

35歳 精町 [志]

村岡 強作 米 9石 一代

59歳 江湖端 [隼]

村上 孫兵衛 物 50石

63歳 椎 [馬]

弥平 ○円極流炮術免状

28歳

村上 辰三郎 米 18石

14歳 大野原 [志→又]

村島 重右衛門	切	35石		65歳	田代	[馬]
辰之助			○(種目・程度記無)	24歳		
村島 雪川	切	20石		52歳	西精	[隼]
村島 喜兵衛	切	20石	○剣目録、火術二段	41歳	川原小路	[志→空]
村島 伴之進	切	20石		42歳	精町	[縫]
(跡) ⇨ (記欠)						
村島 治右衛門	切	15石		77歳	大詫摩	[六]
藤左衛門				27歳		
迎 文橋	米	28石8斗	○文学独看、剣目録	38歳	西精	[周]
迎 平兵衛	切	25石		68歳	今泉村	[周]
栄之允			○槍目録、円極流三段	38歳		
迎 春塘	切	65石		37歳	長瀬町	[左→臯]
向井 新八	切	45石		53歳	精町	[市]
向井 次郎作	切	20石		53歳	袋村	[計→千]
小三郎				18歳		
室節 平次郎	物	50石	○剣免状	27歳	新地	[播]

も

百島 嘉右衛門	切	30石		51歳	本庄通小路	[隼→縫]
林之助				16歳		
百崎 理左衛門	米	9石	一代	66歳	田代	[又]
持永 作之允	切	20石		59歳	来迎寺村	[周]
六助 (改名) →助左衛門			○槍目録、剣目録、円極流三段	27歳		
諸隈 善左衛門	切	20石		55歳	山浦	[又]
忠助			○剣	19歳		
諸熊 義左衛門	切	35石	○槍免状	66歳	西御堀	[隼]
諸岡 伴之進	物	215石		47歳	枳	[神→弥]
空之允				21歳		
諸岡 規作	物	70石	○槍免状、剣免状	29歳	鬼丸	[左→臯]
諸岡 作左衛門	物	125石		53歳	(住居欠)	[志→六]
作太夫			○文学独看、剣免状	26歳		
諸岡 大之助	切	20石		55歳	鬼丸	[志]
彈九郎			○剣免状	31歳		
諸岡 卯兵衛	切	45石(内加5石)		71歳	龍泰寺小路	[伊→空]
練吉郎			○槍免状	33歳		
諸岡 空兵衛	切	30石	○文学独看、剣目録	32歳	馬責馬場	[六]
森 大之允	米	9石	○槍免状	29歳	材木町	[伊→空]
森下 壮左衛門	切	90石		54歳	川原小路	[計→千]
傳藏				16歳		
森川 利左衛門	切	32石				[周]
(跡) ⇨ 覚之允			○(種目・程度記無)	25歳	龍泰寺小路	
森川 文之允	物	40石	○文学独看	32歳	片田江	[弥]
本島 藤太夫	切	65石(内加5、役25)	○火術奥義	46歳	水ヶ江	[志]
喜八郎			○槍、火術	26歳		

*藤太夫(号松陰)江川太郎左衛門に砲術を学ぶ。大砲鑄造に尽くす。安政2年7月長崎海軍伝習派遣。『松之落葉』の編著者。喜八郎は嘉永4(1851)年より香焼島、神ノ島出張、火術方となり安政2年長崎海軍伝習に参加。

本告 治部右衛門 米 72石(内加5石)○文学独看 40歳 鷹師 [左→臯]

や

山崎	孫三郎	物 125石		42歳	南御堀端	[弥]
山崎	余五郎	切 20石		49歳	与賀馬場	[隼]
	平太			18歳		
山崎	左忠太	米 9石 一代		61歳	田代	[市]
山本	傳左衛門	物 130石		38歳	片田江	[神→大]
山本	助之允	米 36石		41歳	鷹師	[志]
	與作			(記欠)		
山本	達助	米 9石	○火術二段	39歳	馬賀馬場	[志]
山領	千左衛門	物 75石	○(種目・程度記無)	23歳	中ノ小路	[市→弥]
山口	栄四郎	切 25石	○文学独看	35歳	水ヶ江	[隼→播]
山口	清左衛門	切 30石		57歳	田代	[又]
	五郎助		(印欠) 槍免状	26歳		
山口	市郎左衛門	切 52石6斗		52歳	八丁馬場	[弥→六]
	金兵衛			24歳		
山中	四郎三	物 15石		55歳	鷹師小路	[左]
山内	善右衛門	米 37石8斗		61歳	古賀	[計→千]
	甚八郎			17歳		
山村	伊左衛門	物 120石		35歳	辻ノ堂	[神→大]
山村	九郎兵衛	物 30石		57歳	武藤村	[左→臯]
	金兵衛 (改名) →為一郎			27歳		
山村	忠太夫	米 9石		47歳	御藏番	[又]
	兵右衛門		○剣目録	26歳		
山村	喜兵衛	物 100石		65歳	妙安寺小路	[播→六]
	善太夫		○柔術、剣	午29歳		
山田	清右衛門	米 9石	○火術二段	48歳	川副為重村	[志]
	儀一郎			午14歳		
藪内	才吉郎	切 65石	○槍免状	31歳	八幡	[志]
藪内	宗也	切 110石		52歳	八幡	[市]
	元佐			23歳		
八戸	彦兵衛	物 25石	○文学出精	43歳	鷹師	[六→弥]
八戸	要太夫	物 40石	○(種目・程度記無)	29歳	六反田村	[主→水]
八重野	太郎兵衛	米 27石		52歳	水ヶ江	[隼]
	謙三郎			午15歳		
八田	弥右衛門	米 10石8斗	○槍免状	43歳	鬼丸	[伊]
八並	次郎助	物 33石5斗	○文学独看	38歳	鬼丸	[隼]
安満	伸太郎	物 35石		15歳	八幡小路	[伊→縫]
山邊	壯右衛門	米 9石 一代		67歳	田代	[伊→杔]
安岡	易助	切 30石	○(種目・程度記無)	48歳	愛敬島	[計→千]
安本	権兵衛	切 30石		63歳	都渡城宿	[志]
	久平			36歳		

ゆ						
湯原 清一郎	切 60石			19歳	川原小路	[計→千]
よ						
横尾 平作	物 60石	○剣免状		50歳	十間端	[播]
六治				17歳		
横尾 勘介	切 50石(内加10石)	○火術免状		38歳	中ノ橋小路	[志]
横尾 次郎右衛門	切 55石(内加10石)			53歳	鬼丸	[弥→志]
小次郎		○文学独看		33歳		
横尾 佐吉	切 35石(内加 5石)			65歳	今宿裏小路	[縫→馬]
文吾	切 25石	○文学独看、剣免状		42歳		
横尾 演藏	切 25石			49歳	川原小路	[又]
英次				36歳		
横尾 龍左衛門	切 20石	○文学独看、剣目録		42歳	馬賣馬場	[六]
横尾 善太夫	切 20石	○槍免状、剣目録、円極流三段		44歳	大島村	[市]
横尾 芳太郎	切 20石			40歳	多布施村	[左→臯]
横尾 二左衛門	米 9石 一代			73歳	高尾	[水]
横尾 神左衛門	米 9石 一代			64歳	本庄	[伊→空]
横山 平兵衛	物 45石	○槍免状		45歳	十間端	[弥]
清太郎				18歳		
横田 善左衛門	切 45石			55歳	田代	[馬]
誠太郎		○文学独看、円極流炮術免状		30歳		
米倉 清之允	物 170石			24歳	片田江	[周]
米倉 清右衛門	切 20石			65歳	高岸	[縫]
重兵衛		○文学独看、槍目録		33歳		
吉井 晋	物 56石5斗	○槍		34歳	水ヶ江	[水]
吉島 龜一郎	切 53石			13歳	花房	[六]
(改名) →六郎次						
吉原 五左衛門	切 20石			34歳	石塚村	[周→志]
吉岡 大助	切 30石	○文学独看		42歳	今宿裏小路	[計→千]
吉岡 作左衛門	切 25石	○火術二段		43歳	多布施	[志]
権作				18歳		
吉岡 千兵衛	切 20石			64歳	辻ノ堂	[馬→志]
伴六		○剣目録		25歳		
吉村 謙助	切 25石(内加7石)	○文学出精		21歳	鷹師	[伊→空]
吉村 市郎右衛門	切 20石			53歳	高岸村	[水]
久太夫		○剣印可、槍目録		31歳		
吉村 新九郎	米 9石	○文学出精、槍目録		25歳	神野村	[志]
嘉村 治兵衛	物 72石(内加7石)	○槍免状		40歳	会所小路	[播]
喜八				14歳		
嘉村 二兵衛	切 40石			52歳	古賀	[神→大]
哲蔵		○文学独看		30歳		
嘉村 辰一郎	切 30石			17歳	安住	[縫]
嘉村 伴左衛門	物 30石			71歳	鬼丸	[神→大]
平作				19歳		

吉田	五左衛門	切	20石		67歳	大中島	[縫]
	市郎			◎剣免状	37歳		
吉田	良一郎	切	18石	◎文学、剣	24歳	西河治	[志]
吉田	喜兵衛	切	15石		45歳	東山田村	[六→志]
	<u>四郎左衛門</u>			◎文学独看、剣	30歳		
	清之助				午26歳		
吉富	<u>大之進</u>	米	9石 一代		48歳	愛敬島村	[馬]
	儀左衛門		一代	(記欠)→八田宿			[水]
吉浦	平太	米	9石 一代		49歳	愛敬島	[伊→空]

ろ

六角	善左衛門	米	27石	◎槍目録、柔術免状	39歳	辻ノ堂	[市→弥]
----	------	---	-----	-----------	-----	-----	-------

わ

渡邊	右馬允	切	55石	◎剣免状	43歳	片田江	[水]
	熊之助				15歳		
渡邊	惣右衛門	切	45石	◎文学独看	41歳	大崎	[周→馬]
	佐一郎				15歳		
渡邊	善左衛門	米	28石8斗		62歳	枳	[又]
	善兵衛			◎文学独看、剣免状	36歳		
渡邊	兵左衛門	切	20石	◎槍免状、剣目録	44歳	与賀馬場	[縫]
我孫子	卯吉郎	米	9石		36歳	金立村	[伊→空]